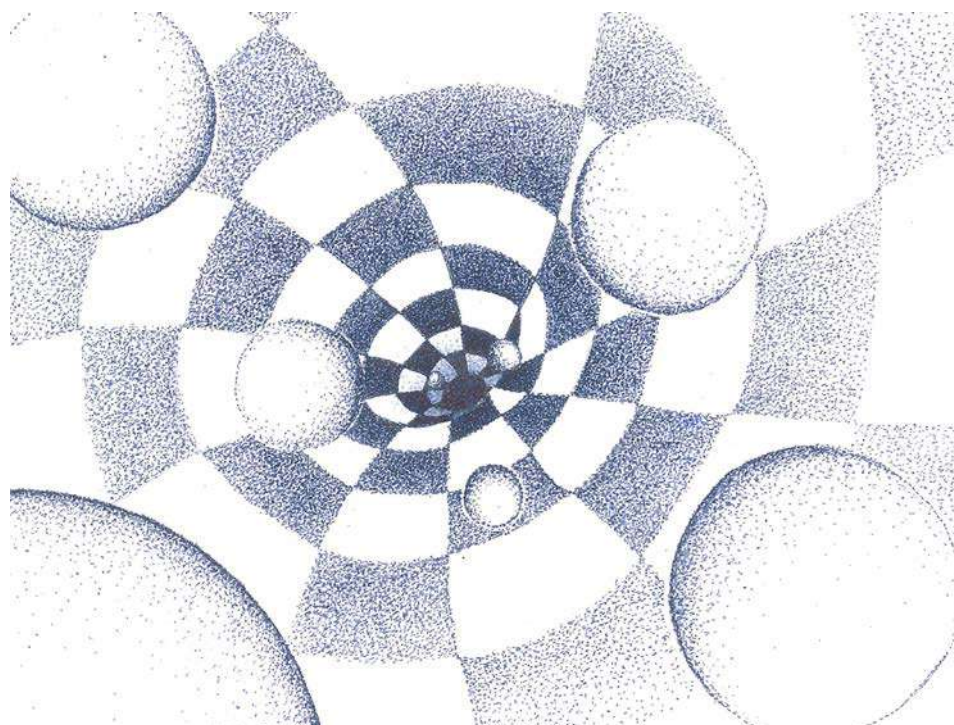


2017 北海道教育大学附属函館中学校教育研究大会

研究主題

「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」
～『学びの地図』に基づいた各教科等の単元のデザイン～



- 主催** 国立大学法人北海道教育大学
北海道教育大学附属函館中学校
- 後援** 北海道教育委員会 函館市教育委員会
- 期日** 2017(平成29)年6月9日(金)・10日(土)
- 会場** 北海道教育大学附属函館中学校

目 次

開催要項	1
講演会・シンポジウムについて	3
研究理論ダイジェスト版	4
研究理論	5
年間単元配列シート（国 語）	2 7
（社 会）	2 8
（数 学）	2 9
（理 科）	3 0
（音 楽）	3 1
（美 術）	3 2
（保 健 体 育）	3 3
（技 術 ・ 家 庭）	3 4
（外 国 語）	3 5
（道 徳 科）	3 6
（総合的な学習の時間）	3 7
（特 別 活 動）	3 8
資質・能力シート及び単元デザインシート（※公開授業に関わるもの）	
（国 語）	4 0
（社 会）	4 2
（数 学）	4 4
（理 科）	4 6
（美 術）	4 8
（保 健 体 育）	5 0
（外 国 語）	5 2
パナソニック教育財団「特別研究指定校」研究資料	5 4

平成 29 年度北海道教育大学附属函館中学校 教育研究大会 開催要項

1. 研究主題： 「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」（3年研究1年次）
～『学びの地図』に基づいた各教科等の単元のデザイン～
2. 主催： 国立大学法人北海道教育大学 ・ 北海道教育大学附属函館中学校
3. 後援： 北海道教育委員会 ・ 函館市教育委員会
4. 期日： 平成29年6月9日（金） ・ 6月10日（土）
5. 会場： 北海道教育大学附属函館中学校

6. 日程：

【1日目】6月9日（金）

12:30	12:50	13:05	13:15	13:25	14:15	14:25	15:15	15:35	16:55
受付	開会式 研究概要説明	移動	公開授業 説明	移動	公開授業Ⅰ	移動	公開授業Ⅱ	移動	教科別分科会

【2日目】6月10日（土）

9:00	10:00	10:10	12:00	12:10
受付	講演会	休憩	シンポジウム	閉会式

7. 授業者及び単元・題材名

	教科	授業会場	授業説明会場 教科別分科会場	授業者	単元・題材名
公開授業Ⅰ	国語	技術室 (1階)	3年B組教室 (1階)	高橋 亜矢	2年B組 「関係を掘り起こす」
	社会	図書室 (2階)	2年C組教室 (2階)	郡司 直孝	1年A組 「世界の様々な地域」(地理的分野)
	数学	被服室 (1階)	3年C組教室 (1階)	有金 大輔	2年A組 「1次関数」
公開授業Ⅱ	理科	理科室 (1階)	理科室 (1階)	池田 忠寛	2年C組 「電流の性質」
	美術	美術室 (2階)	美術室 (2階)	富尾 拓	1年C組 「ハコダテの色いろいろ」
	保健体育	体育館 (1階)	3年A組教室 (1階)	朝倉 潤	3年C組 「球技・ゴール型球技」
	外国語	2B教室 (2階)	2年A組教室 (2階)	福留 志織	1年B組 「わたしの好きなこと」 -メタ文法能力の育成の観点から-

8. 教科研究主題

教科	教科研究主題
国語	国語科における探究的な学習を実現するための単元構成の工夫・改善
社会	「単元を貫く学習課題」による探究的な学習を実現する単元構成の工夫・改善
数学	数学的活動への取組を促し、新たな疑問や問いを導き出すための単元構成の工夫・改善
理科	理科の見方・考え方を育む、領域の特性を生かしたカリキュラムデザイン
美術	学びの深まりが自覚できる美術の学習指導を目指して ～「図画工作」から「美術」への学びの系統性～
保健体育	「何を、どのように学ぶか」を見通せるようにする単元構成の工夫・改善
外国語	言語能力を構成する資質・能力の育成を目標としたカリキュラムデザイン

9. 教科別分科会での司会者・共同研究者・助言者

	司会者	共同研究者	助言者
国語	高井太郎 (北海道教育大学附属函館中学校教諭)	内藤一志氏 (北海道教育大学函館校教授)	滝澤智子氏 (函館市立北中学校長)
社会	山下尚也 (北海道教育大学附属函館中学校教諭)	山口好和氏 (北海道教育大学函館校准教授)	深見亘氏 (北海道教育庁渡島教育局指導主事)
数学	木村奈々 (北海道教育大学附属函館中学校教諭)	池田正氏 (北海道教育大学函館校准教授)	大山裕之氏 (北海道教育庁渡島教育局指導主事) 毛利繁和氏 (函館市立本通中学校長)
理科	金子智和 (北海道教育大学附属函館中学校教諭)	松浦俊彦氏 (北海道教育大学函館校教授)	辰巳哲治氏 (函館市教育委員会指導主事)
美術	澤田仁志氏 (北海道教育大学附属函館小学校主幹教諭)	橋本忠和氏 (北海道教育大学函館校教授)	仲井靖典氏 (知内町立知内中学校長)
保健体育	久保田信寿氏 (函館市立戸倉中学校教諭)	新開谷央氏 (北海道教育大学函館校特任教授)	土橋史人氏 (七飯町立大中山中学校長)
外国語	平石暁史 (北海道教育大学附属函館中学校教諭)	上山恭男氏 (北海道教育大学函館校教授) 高橋圭介氏 (北海道教育大学函館校准教授) 伊藤美紀氏 (北海道教育大学函館校准教授)	田中君枝氏 (北海道教育庁渡島教育局義務教育指導班主査) 安達克佳氏 (函館市立西中学校長)

講演会

「学校教育をデザインする」 荒瀬 克己 氏

〈講師プロフィール〉

大谷大学文学部教授

(言語技術, 国語教育, 学校経営, コミュニケーション)

京都市立堀川高等学校校長, 京都市教育委員会教育企画監を経て2014年から現職。現在, 関西国際大学客員教授, 福井大学教職大学院客員教授, 京都市教育委員会指導部顧問, 岡山県真庭市政策アドバイザー, 大学コンソーシアム京高大連携推進室コーディネーター, 学校法人駿河台学園駿台予備学校顧問, また, 中央教育審議会初等中等教育分科会, 教育課程部会等の委員, 文部科学省改革推進本部・高大接続改革チームメンバー, 広域通信制高等学校の質の確保・向上に関する調査研究協力者会議座長等を兼任。



2005年以降, 中央教育審議会初等中等教育分科会, 教育課程部会, 教育課程企画特別部会, キャリア教育・職業教育特別部会, 高等学校教育部会, 高大接続特別部会, 高大接続システム改革会議(「多面的な評価検討ワーキンググループ」主査), 教職大学院特別審査会, 教員の資質能力向上に関する協力者会議, 文部科学省言語力育成協力者会議等の委員, 高等学校学習指導要領「総合的な学習の時間編」作成協力者や, 全国都市立高等学校長会長, 京都市立高等学校長会長, 兵庫教育大学教育行政能力育成カリキュラム開発評価委員会委員長, 石川県教育委員会アクションプラン推進委員, 京都大学大学院非常勤講師, 認定特定非営利活動法人日本文字文化機構理事, 独立行政法人国立高等専門学校機構監事, 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員等を歴任。

2007年, NHK番組「プロフェッショナル仕事の流儀」で『背伸びが人を育てる』校長・荒瀬克己として放送された。著書に『奇跡と呼ばれた学校』(朝日新書 2007年1月), 『子どもが自立する学校』(共著, 青灯社 2011年1月), 『「アクティブ・ラーニング」を考える』(共著, 東洋館出版社 2016年8月) 『アクティブラーニング実践Ⅱ』(共著, 産業能率大学出版部 2016年8月) 他。

シンポジウム

「学校教育全体で資質・能力の育成を目指すために何をすべきか」

〈シンポジスト〉

- | | |
|---------|----------------------------|
| 荒瀬 克己 氏 | (大谷大学文学部 教授) |
| 福本 徹 氏 | (国立教育政策研究所 総括研究官) |
| 西村 里史 氏 | (市立札幌開成中等教育学校 MYPコーディネーター) |
| 郡司 直孝 | (北海道教育大学附属函館中学校 研究部長) |

〈コーディネーター〉

- | | |
|------|----------------------|
| 白川 卓 | (北海道教育大学附属函館中学校 副校長) |
|------|----------------------|

研究主題

新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開

- ・中央教育審議会による答申（平成28年12月21日），新学習指導要領の告示（平成29年3月31日）
- ・経営理念「国の先端的研究校，地域の中核となる学校としての役割を果たす」の実現
→「新学習指導要領のモデル校」としての役割

北海道教育大学附属函館中学校研究大会

H.U.E F-HAKODATE J.H.S
CONFERENCE FOR NEXT EDUCATION DESIGN

HED '17



1 年次副主題

『学びの地図』に基づいた各教科等の単元のデザイン

- ・各学校が学校教育目標等を実現するために，学校として育成を目指す資質・能力を明らかにし，そのためにふさわしい教育内容を構成するという手続きで教育課程（＝「学びの地図」）を編成する。
- ・単元の学習を通してどのような資質・能力の育成を目指すのか（目指すことができるか考えるのか），そのために各単位時間の学習内容や学習者がどのように学ぶのかを，探究的な学習を大切にして組み立てる（デザイン）。

研究前年度である平成28年度の本研究主題に向けた取組

- ①新学習指導要領に向けた議論の調査及び学習会 ②外部講師を招聘した教育講演会 ③教科研究会

本校が
育成を目指す
資質・能力の設定

- a)各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力＝**各教科等の資質・能力**
b)学習の基盤となる資質・能力＝**情報活用能力**
c)現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力＝**市民として求められる資質・能力**

カリキュラム・マネジメント

各教科等で共通した
『学びの地図』の
作成・改善

- ・単元を1つのまとまりとして指導計画を作成する → 「年間単元配列シート」
- ・その単元の学習を通して育成を目指す資質・能力を設定する → 「資質・能力シート」

単元のデザイン

- ・育成を目指す資質・能力のために，単位時間（学習内容・学習方法等）を積み重ねていくのかについて，探究的な学習の過程を大切にして組み立てる → 「単元デザインシート」
- ・単位時間の展開を構成する → 「単位時間展開シート」

カリキュラムの
改善

- ・単元ごとに学習者による授業評価，授業者による自己評価等によって，単元の配列やその単元で育成を目指す資質・能力，単元のデザインの改善

「道徳科」を見据えた授業実践の蓄積

「市民として求められる資質・能力」育成の中核としての特別活動の改善

北海道教育大学等の教員によるリレー講演会

探究的な学習の中核としての「総合的な学習の時間」の改善

目標

平成32年度（中学校学習指導要領全面实施の前年度）に他校が教育課程編成等において参考とすることができる「学びの地図」の完成・提供

目的

中教審答申及び新学習指導要領の趣旨を実現するための中学校における教育の展開の実現

本校は、「文部科学省 次世代の教育情報化推進事業 情報活用能力の育成に関する実践的調査研究『情報教育の体系的な推進』（平成29年度）」、「国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業【数学】（～平成30年度）」、「海洋教育パイオニアスクールプログラム（平成29年度）」、「パナソニック教育財団実践研究助成【特別研究指定校】（～平成30年度）」の研究指定・研究助成を受けています。

「新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開」（1年次）

～「学びの地図」に基づいた各教科等の単元のデザイン～

1 研究主題及び副主題について

（1）研究主題について

「国の先端的研究校」「地域の中核となる学校」という本校の役割を果たすべく、次期学習指導要領の趣旨を実現する「新学習指導要領のモデル校」を目指す。

平成 26 年 11 月に文部科学大臣より「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問が行われ、議論が重ねられてきた。中央教育審議会教育課程特別部会は平成 27 年 8 月に「論点整理」をまとめ、平成 28 年 8 月には教育課程部会が「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」を議論の成果として取りまとめた。その後関係団体からのヒアリングを経て、平成 28 年 12 月 21 日に中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」が文部科学大臣へ答申された。これを受けて、平成 29 年 3 月 31 日に次期学習指導要領が告示され、小学校は平成 32 年度から、中学校は平成 33 年度からの全面実施が予定されている。また、平成 29 年度の「周知・徹底」期間を経て、平成 30 年度からは一部の先行実施が求められる予定である（「中央教育審議会教育課程部会資料 3」平成 28 年 8 月 26 日）。

本校は「国の先端的研究校、大学の教育実習の機関としての機能、地域の中核となる学校としての役割を果たす」ことを経営理念の一つとして掲げている。資料 1 に示すように、これまでもそれぞれの時代に求められる教育の在り方に関する先進的で挑戦的な研究に取り組んできた。また、文部科学省や国立教育政策研究所等の研究指定への取組を通して、多くの成果を残してきた（※ 1）。次期学習指導要領（以下「新学習指導要領」）が示され、実施までの過渡期となる今こそ、本校は「国の先端的研究校」や「地域の中核となる学校」という、いわば「新学習指導要領のモデル校」としての役割を果たしていきたい。

そこで、平成 29 年度から平成 31 年度までの 3 年間、副主題に示す課題に正対した具体的な実践研究によって、これからの新しい教育の具現化を目指し、本研究主題を設定した。

- ※ 1 本校が平成 29 年度に取り組んでいる研究指定及び研究助成は以下の通りである。
- ・文部科学省「次世代の教育情報化推進事業 情報活用能力の育成に関する実践的調査研究 情報教育の体系的な推進」（平成 29 年度）
 - ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「平成 29 年度教育課程研究指定校事業（中学校数学）」（平成 29・30 年度）
 - ・パナソニック教育財団「平成 29 年度（第 43 回）実践研究助成 特別研究指定校」（平成 29・30 年度）
 - ・日本財団／東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター／笹川平和財団海洋政策研究所「海洋教育パイオニアスクールプログラム」（平成 29 年度）

資料1 1985（昭和60）年度以降の本校の研究主題及び副主題

年度		研究主題	副主題
平成27年度	2015年度	今、求められる21世紀型の学力の育成を目指して（3年次）	アクティブ・ラーニングによる学習への深いアプローチ
平成26年度	2014年度	今、求められる21世紀型の学力の育成を目指して（2年次）	教科・領域を横断した基礎力・思考力・実践力の向上
平成25年度	2013年度	今、求められる21世紀型の学力の育成を目指して（1年次）	知識・技能を活用する力を育む学習指導の工夫・改善
平成24年度	2012年度	言語活動を通した思考力・判断力・表現力の評価についての組織的な取組	—
平成23年度	2011年度	学習指導要領に定められた目標等の実現状況を把握するための評価方法についての研究開発	—
平成22年度	2010年度	新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開（3年次）	全面実施を見据えた教育課程の編成
平成21年度	2009年度	新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開（2年次）	改善事項を踏まえた各教科等の取り組み
平成20年度	2008年度	新学習指導要領の趣旨を実現する教育の展開（1年次）	言語活動に着目した教科指導
平成19年度	2007年度	人間力を育むカリキュラムの開発（3年次）	人間力の基盤となる総合化された基礎・基本の育成
平成18年度	2006年度	人間力を育むカリキュラムの開発（2年次）	学習活動の相互補完的・相互運流的なつながりを目指して
平成17年度	2005年度	人間力を育むカリキュラムの開発（1年次）	「特別活動」と「総合的な学習の時間」の有機的な関連を生かして
平成16年度	2004年度	「確かな学力」を身につけ、自己実現できる生徒の育成（2年次）	学ぼうとする力をはぐくむための学習指導の工夫
平成15年度	2003年度	「確かな学力」を身につけ、自己実現できる生徒の育成（1年次）	発展的・補完的な学習は、いかにあるべきか
平成14年度	2002年度	「確かな学びと、「生きる力」の育成を目指して（3年次）	絶対評価を重視した指導計画と授業づくり
平成13年度	2001年度	確かな学びと、「生きる力」の育成を目指して（2年次）	「総合的な学習」の見直しと新学習指導要領に対応した必修教科の指導計画と授業づくり
平成12年度	2000年度	確かな学びと、「生きる力」の育成を目指して（1年次）	新学習指導要領が目指す教育課程の実現
平成11年度	1999年度	自主的・自発的に行動し、創造性に富む生徒の育成（4年次）	「総合的な学習の時間」への実践と課題
平成10年度	1998年度	自主的・自発的に行動し、創造性に富む生徒の育成（3年次）	特色ある教育課程の創造を目指して
平成9年度	1997年度	自主的・自発的に行動し、創造性に富む生徒の育成（2年次）	教科のクロスと自己教育力の育成
平成8年度	1996年度	自主的・自発的に行動し、創造性に富む生徒の育成（1年次）	教科指導における自己教育力の育成
平成7年度	1995年度	新しい学力観にたった学習指導の展開（4年次）	指導・評価の充実をめざして
平成6年度	1994年度	新しい学力観にたった学習指導の展開（3年次）	評価の新しいあり方を求めて
平成5年度	1993年度	新しい学力観にたった学習指導の展開（2年次）	教材開発を柱とする授業改善から
平成4年度	1992年度	新しい学力観にたった学習指導の展開（1年次）	指導計画の充実と授業改善
平成3年度	1991年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第2期4年次）	個が生きる評価を求めて
平成2年度	1990年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第2期3年次）	<教科>新しい視点にたつ多様な学習活動の展開（2年次） <道徳>体験を生かし、自ら考え行動する生徒の育成
平成元年度	1989年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第2期2年次）	新しい視点にたつ多様な学習活動の展開（1年次）
昭和63年度	1988年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第2期1年次）	新教育課程をみずえて
昭和62年度	1987年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第1期3年次）	個を生かす学習の方略（3年次）
昭和61年度	1986年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第1期2年次）	個を生かす学習の方略（2年次）
昭和60年度	1985年度	個を中心にすえた学校教育の創造（第1期1年次）	個を生かす学習の方略（1年次）

※平成28（2016）年度については、4を参照。

(2) 研究副主題について

1 年次研究副主題：「学びの地図」に基づいた各教科等の単元のデザイン

①「学びの地図」とは

学校教育目標達成のために育成を目指す資質・能力や内容等の全体像を見渡すことのできる教育課程を「学びの地図」と呼び、生徒や保護者、地域、教育関係者と共有し・活用できるものとする。

新学習指導要領の下では各学校が「学校教育目標や学校として育成を目指す資質・能力を明確にし」（中教審，2016，p.31）、「どのような授業を行っていくのか，その実現に向けて（略）教育内容といった学校の資源をどう再配分していくのかを考え効果的に組み立てていくこと」（同，p.17）が求められている。新学習指導要領「第1章 総則」においても「生きる力を育むことを目指すに当たっては，学校教育全体並びに各教科，道徳科，総合的な学習の時間及び特別活動（略）の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら，教育活動の充実を図るものとする。」（文科省，2017，p.4）と述べられている。すなわち，各学校は，学校教育目標等を実現するために，学校として育成を目指す資質・能力を明らかにし，そのためにふさわしい教育内容を構成するという手続きで教育課程を編成する必要がある。そのため教育課程には，「子供たちの多様で質の高い学びを引き出すため，学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡す」（中教審，2016，p.20）役割が課されることとなる。中教審はこれを，学習指導要領とともに「学びの地図」（同，p.20）と呼ぶ。

この「学びの地図」は，「教科等や学校段階を越えて教育関係者間が共有したり，子供自身が学びの意義を自覚する手掛かりを見出したり，家庭や地域，社会の関係者が幅広く活用したりできるものとなることが求められ」（同，pp.20-21）るとともに，授業者には「日々の授業等についても，教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組む」（同，p.24）ことができるものとならなくてはならない。このようにして描かれた「学びの地図」を活用することによって，「教科横断的な視点から教育活動の改善を行っていくことや，学校全体としての取組を通じて，教科等や学年を越えた組織運営の改善を行っていく」（同，p.23）ことができるようになると思う。

なお，中教審答申を整理すると，この「学びの地図」には，次の5つの意義を有することが求められていると考えられる。

「学びの地図」が有すべき5つの意義（中教審答申より 筆者作表）

5つの意義	
生徒にとって	学びの意義や見通し，関連を自覚する手掛かりを見出すことができる
授業者にとって	1時間や単元が教育課程全体の中でどこに位置づいているか，社会とどのようにつながっているかを意識できる
他教科の教員にとって	他教科等で，何ができるようになるように，何をどのように学んでいるのかを把握することができる
他学校段階の教員にとって	自学校段階での学びがどのようにつながるのかを把握することができる
家庭や地域，社会の関係者にとって	学校教育において何ができるようになるように，何をどのように学んでいるのかを把握することができる

※2「社会とのつながり」として、中教審は各学校の教育課程が「社会に開かれた教育課題」となることを求めている。具体的には次のような点が重要であるとする（pp. 19-20）

- ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ②これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

以上のことから、本研究では「学びの地図」を「本校が育成を目指す資質・能力や、育成を目指して展開される各教科等の単元配列や各単元で育成を目指す資質・能力等を示したもの」とおさえることとする。

②「単元のデザイン」とは

単元の学習を通して育成を目指す資質・能力を明らかにした上で、単元の各単位時間の学習内容や学習方法を構成する（＝単元をデザインする）。

新学習指導要領は、「学習の内容と方法の両方を重視し、子供たちの学びの過程を質的に高めていく」ために「単元や題材のまとまりの中で、子供たちが「何ができるようになるか」を明確にしながら、「何を学ぶか」という学習内容と、「どのように学ぶか」という学びの過程を（略）組み立てていくこと」（同，p. 26）を目指しており、「長期的な視野で学習を組み立てていくことが極めて重要」（同，p. 29）であると述べている。このことは新学習指導要領において、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら」という文言が複数回用いられていることから明らかである（文科省，2017，p. 7, p. 8）。

また「学びの地図」は、「その単元にどのような役割を担わせるのか」を明確にすることが重要であると考え。さらには、「単元を構成する各単位時間にどのような役割を担わせるのか」を明確にすることが重要であると考え。すなわち、その単元の学習を通してどのような資質・能力の育成を目指すのか（目指すことができるのか）、そのために各単位時間の学習内容や生徒がどのように学ぶのかを構成することが必要となる。

以上のことから本研究での「単元のデザイン」とは、「資質・能力の育成を目指すために単元において学習内容や学習方法等を構成すること」をいう。

研究1年次では、本校が育成を目指す資質・能力を明らかにした上で、各教科等の全単元でどのような資質・能力を育むのかを設計した「学びの地図」を描くとともに、その「学びの地図」に基づいた各教科等の単元における学習内容や学習方法の構成（＝デザイン）をいかに行っていくかという実践研究に取り組むこととする。

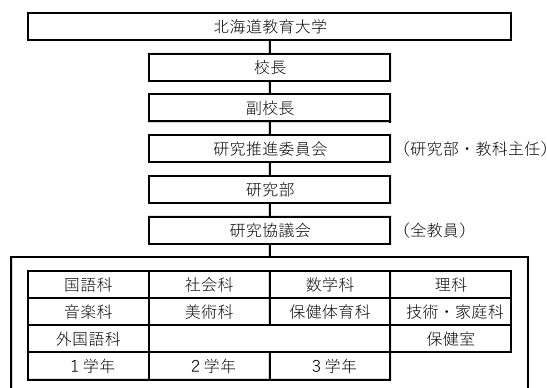
2 本研究の目的及び目標

本研究は、中教審答申（平成 28 年 12 月 21 日）「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」及びこれに基づいて告示された新学習指導要領の趣旨を実現するための中学校における教育の展開の実現を目的とする。

また，先端的研究校や地域のモデル校としての役割を果たすべく，中学校における新学習指導要領全面実施の前年度である平成 32 年度に，他校が教育課程編成等において参考とすることのできる「学びの地図」等を完成させることを目標とする。

3 研究体制

本校は，北海道教育大学の下に研究を推進する。研究計画の立案及び運営に関しては，研究部が中心に取り組み，研究部長及び各教科主任で構成される研究推進委員会において，学校教育活動全体に関わる事柄の協議を行なう。研究協議会は，全教員が参加して隔週で開催し，学校研究に関する協議や教育講演会等を内容とする（右図）。



4 本研究までの経緯（平成 28 年度の取組）

平成 28 年度は，新学習指導要領で求められる教育活動の具体的な在り方を見据えた調査研究活動に取り組むため，教育研究大会を開催せず，各教科の取組を中心とした準備・検討の期間とした。具体的には，①新学習指導要領の方向性に関する調査と学習会，②外部講師の招聘による教育講演会，③教科ごとの取組や成果を広く議論し発信する機会としての教科研究会，をそれぞれ実施した（資料 2）。

資料 2 平成 28 年度の取組

月日	種類	内容
9 月 7 日（水）	①	研究協議会「次期学習指導要領での各教科の方向性～ワーキンググループにおける審議のまとめ～」（社会）
9 月 9 日（金）	②	教育講演会（講師：小玉重夫 東京大学大学院教授） 「シティズンシップ教育の視点から見たカリキュラム・イノベーションとアクティブラーニング」
10 月 5 日（水）	①	研究協議会「次期学習指導要領での各教科の方向性～ワーキンググループにおける審議のまとめ～」（国語・美術）
10 月 12 日（水）	①	研究協議会「次期学習指導要領での各教科の方向性～ワーキンググループにおける審議のまとめ～」（数学）
10 月 14 日（金）	③	教科研究会（数学）「比例と反比例」（第 1 学年）

10月19日(水)	①	研究協議会「次期学習指導要領での各教科の方向性～ワーキンググループにおける審議のまとめ～」(理科・保健体育)
10月26日(水)	①	研究協議会「次期学習指導要領での各教科の方向性～ワーキンググループにおける審議のまとめ～」(外国語)
10月27日(木)	③	北海道函館中部高等学校との英語連携授業(外国語)
11月4日(金)	③	教科研究会(国語)「走れメロス」(第2学年)
11月9日(水)	②	教育講演会(講師:福本徹 国立教育政策研究所総括研究官) 「新しい教育課程と見方・考え方」
11月22日(火)	③	教科研究会(理科)「地球と私たちの未来のために」(第3学年)
11月24日(木)	③	教科研究会(社会・第1回)「地方自治」(第3学年)
11月25日(金)	③	教科研究会(美術)「書家 金子鷗亭の『線』～アートカードを活用した鑑賞・表現～」(第3学年)
12月19日(月)	③	教科研究会(社会・第2回)「財政」(第3学年)
2月24日(火)	②	教育講演会(講師:稲垣忠 東北学院大学准教授)※授業力向上セミナー 「授業・学びのデザインとICTの役割」
3月23日(木)	②	教育講演会(講師:久野弘幸 名古屋大学大学院准教授) 「今次の学習指導要領改訂の意味と教科横断カリキュラムの編成」

5 研究内容

本校が育成を目指す資質・能力の設定を踏まえて、各教科等で共通した様式の「年間単元配列シート」「資質・能力シート」に基づいて、単元をデザインする（「単元デザインシート」）。

本研究は、1で述べたように、学校が学校教育目標等を達成するために、学校として育成を目指す資質・能力を明らかにし、そのためにふさわしい教育内容を構成するという手続きでの「学びの地図」（教育課程）の編成の具現化に取り組むものである。そのため、本研究では、本校で育成を目指す資質・能力の設定を行なった後、年間の指導計画である「年間単元配列シート」をすべての教科等で作成することとした。そして、すべての教科等の全単元について、単元において育成を目指す資質・能力を明らかにする「資質・能力シート」を作成し、その育成を実現するためにどのように学習内容や学習方法を構成するかを明らかにした「単元デザインシート」を作成することとした。単元の授業がすべて終わった後には、学習内容や学習方法の構成や、育成を目指す資質・能力の適切さなどについて、生徒や他の教科担当者等による検討・評価を行い、各シートの改善に取り組むことによって「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」（文科省、2017、p.4）を目指した。すべての教科等の全単元での取組は、「各学校が設定する学校教育目標を実現するために、学習指導要領等に基づき教育課程を編成し、それを実施・評価し改善していくこと」（中教審、2016、p.23）として説明される「カリキュラム・マネジメント」を実現することになると考える。なお、「年間単元配列シート」「資質・能力シート」「単元デザインシート」の様式については、「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立て」（文科省、2017、p.4）ることに資するものとするために、すべての教科等で共通とした。平成28年度から平成30年度までに予定している作成及び改善の流れを別添資料1として示す。

以下では、具体的な研究内容として、（1）「本校が育成を目指す資質・能力の設定」、（2）「各教科等で共通した『学びの地図』の作成」、（3）「単元のデザイン」、（4）「カリキュラムの改善」について述べていく。

（1）本校が育成を目指す資質・能力の設定

本校が育成を目指す資質・能力として、「各教科等の資質・能力」、「情報活用能力」、「市民として求められる資質・能力」を設定する。

中教審答申は、「資質・能力」は次の「3つの柱」に基づいて整理できるとしている（中教審、2016、pp.28-31）。

- ①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」
各教科等において習得する知識や技能であるが、個別の事実に知識のみを指すのではなく、それらが相互に関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるものを含むものである。
（以下略）
- ②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
将来の予測が困難な社会の中でも、未来を切り拓いていくために必要な思考力・判断力・表現力等である。（以下略）
- ③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

前述の①及び②の資質・能力を、どのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素（以下略）

また、「資質・能力」には次の3つがあるとしている（同、pp.32-45、ただしa）～c）の付与は筆者による）。

- a) 各教科等において育まれる資質・能力
- b) 教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力
- c) 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

これらは、新学習指導要領において、次のように整理されている。（文科省、2017、p.4-5、ただし下線は筆者による）

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第4章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- (1) 各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。
- (2) 各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

そこで本研究では、本校が育成を目指す資質・能力について、a)各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力、b)学習の基盤となる資質・能力、c)現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の3つの側面から、その育成をアプローチすることとする。

a) 「各教科等における指導を通して育まれる資質・能力」について

1で述べたように「各学校が学校教育目標等を実現するために、学校として育成を目指す資質・能力を明らかにし、そのためにふさわしい教育内容を構成するという手続きで教育課程を編成する必要がある」。本校の学校教育目標は以下の通りである。

資料3 本校の学校教育目標（ただしア）～オ）の付与は筆者による）

- ア) 強い意志をもち、主体的に行動し、創造性に富む生徒を育てる
- イ) 心身ともに健康で明るく、情操豊かな生徒を育てる
- ウ) 知性を磨き、真理を愛し、自ら努力する生徒を育てる
- エ) 秩序を守り、仕事に責任をもち、実践力のある生徒を育てる
- オ) 学校や郷土を愛し、よりよい社会の建設に協力できる生徒を育てる

学校教育目標の達成のためには、例えば、イ) を達成・実現するためには保健体育科と美術科に期待される役割が大きく、エ) やオ) の前段を達成するためには道徳科に期待される役割が大きい。また、ア) やウ) に関しては、各教科等の授業を通じて達成することが考えられる。つまり、本校の学校教育目標を達成するためには、各教科や道徳科、総合的な学習の時間、特別活動の授業が、「各教科等における指導を通して育まれる資質・能力」を明らかにした上で、その育成の実現を目指した教育活動として展開されることが重要であると考えた。すなわち、各教科等において育まれる資質・能力を意識し自覚した教育活動の展開によって、学校教育目標の達成に近づくことができると考えたのである。

b) 「学習の基盤となる資質・能力」について

「学習の基盤となる資質・能力」として、中教審は以下を例示している（中教審，2016，pp. 34-39）。

- ・言語能力
- ・情報活用能力
- ・物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく力（いわゆる「クリティカル・シンキング」）
- ・統計的な分析に基づき判断する力
- ・問題を見だし解決に向けて思考するために必要な知識やスキル（問題発見・解決能力）など

本校は、ICT を活用した教育に関する研究推進のために、平成 24 年度からタブレット PC を導入し、学習における ICT の効果的な活用について研究を行ってきた。タブレット PC は、平成 24 年度に 45 台、平成 25 年度に 370 台を導入・貸与し、一人一台のタブレット PC 貸与を実現してきた。教科指導における ICT 活用についての実践研究としては、各教科の授業等において、説明や発表の様子を互いに動画で撮影し合うことによる評価への活用、反転授業の実施、インターネットを活用した情報収集等に取り組んできた。さらに平成 26 年度より、附属函館小中学校における ICT 活用を視点とした小中一貫に関する研究に取り組んでいる。こうした状況から本校は、学習の基盤となる資質・能力として「情報活用能力」を設定することとした。

ただし、「情報活用能力」を本校が設定することは、その他の能力（言語能力など）の育成を目指さないということではない。そのため、「情報活用能力」が、ICT を活用する能力のみではないことに留意しつつ、これまでの研究成果を活用しながら、育成を目指す資質・能力として取り組んでいくことにするた。

c) 「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」について

「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」として、中教審は以下を例示している（同，pp. 39-44）。

- ・健康・安全・職に関する力
- ・主権者として求められる力
- ・新たな価値を生み出す豊かな創造性
- ・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力

- ・地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力
- ・自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力
- ・豊かなスポーツライフを実現する力 など

ここで再度、本校の学校教育目標（資料3）に立ち返ると「学校や郷土を愛し、よりよい社会の建設に協力できる生徒を育てる」における、「よりよい社会の建設に協力できる」資質・能力を直接射程に入れた取組がこれまで不在となっている。

平成28年度より選挙権を有する年齢が満18歳に引き下げられたことに伴い、現代社会の諸課題に対してアプローチしたり、そのための力を育成する教育活動を展開したりすることが求められている。また本校は、平成26年度文部科学省「消費者教育の推進のための調査研究事業」を受託し、「消費者市民」育成のための各教科等を横断したカリキュラムの在り方に関する研究成果を有している。何よりも本校は「21世紀に世界で活躍する人の育成」を目指している（本校webページ）。

そこで本校は、国や地域に限らず主体的に事柄に関わり、受動的ではなく能動的に、自ら積極的に社会へと働きかけ、参加する存在を「市民」とし、「市民として求められる資質・能力」を、育成を目指す資質・能力として設定することとした。なお、平成29年度は「市民として求められる資質・能力」における三つの柱について、中教審が示した「主権者教育で育成を目指す資質・能力」における三つの柱に拠ることとする。

以上を踏まえて、本校が育成を目指す資質・能力を次のように設定した。

- a) 「各教科等における指導を通して育まれる資質・能力」→各教科等の資質・能力
- b) 「学習の基盤となる資質・能力」→情報活用能力
- c) 「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」→「市民として求められる資質・能力」

(2) 各教科等で共通した「学びの地図」の作成

「学びの地図」として、すべての教科等で共通した様式の「年間単元配列シート」「資質・能力シート」を開発する。

本研究においては、「年間単元配列シート」及び「資質・能力シート」を「学びの地図」として位置付けることとした。

①「年間単元配列シート」

「年間単元配列シート」は、横軸に学年、縦軸に月を定め、1学年から3学年までの単元・題材の取り扱い時期を大まかに整理したものである(資料4)。なお、本シートの単元については、現行の学習指導要領及び平成28年度採択の教科書を参考にして作成している。

本シートは、共通の様式による簡易なシートによって、各教科等における学習の内容や時期を大まかに把握することが可能であり、教科等横断の手がかりとなることを期待した。また本校は、学年に固定した教科担任制ではなく、単元に応じて授業者が入れ替わる仕組みを採っており、本シートは授業計画(誰がどの学年のどの単元の授業者となるのか)を検討する際にも資料として活用された。さらに今後は、授業実践を経た上で教育課程の改善を図る際に活用され、実際にこの単元配列が意図的に変更・改善されることが期待される。そういった意味で本シートは、カリキュラム・マネジメントのきっかけをつくる資料であると同時に、その成果を示す資料でもあると考えている。

資料4 年間単元配列シート(例として国語科を示す)

第1学年		平成29年度 年間単元配列シート(国語科)													第2学年					
月	単元	教材・題材	話す	書く	読む	量	月	単元	教材・題材	話す	書く	読む	量	月	単元	教材・題材	話す	書く	読む	量
4	四 音読と探検つづ	音読の楽しさ、探検つづ(探検の楽しさ、探検の面白さ)【話す聞く】探検の面白さ【書く】探検の面白さ【読む】探検の面白さ【量】探検の面白さ	1	1	1	4	4	一 言葉を探る	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	1		2	4	4	一 言葉を探る	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	1		1	4
5	三 世界のひろく	世界のひろく【話す聞く】世界のひろく【書く】世界のひろく【読む】世界のひろく【量】世界のひろく	2	2	2	4	5	二 関心を育てる	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	4	3		6	5	二 関心を育てる	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道				
6	二 探検を楽しむ	探検の面白さ【話す聞く】探検の面白さ【書く】探検の面白さ【読む】探検の面白さ【量】探検の面白さ	2		5		6	三 自己をひらくる	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道			3	2	6	三 自己をひらくる	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道				2
7	三 世界をひらく	世界のひろく【話す聞く】世界のひろく【書く】世界のひろく【読む】世界のひろく【量】世界のひろく	3	2	2	4	7	四 表現を磨く	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	1		3	2	7	四 表現を磨く	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道				1
8	四 表現を磨く	表現の面白さ【話す聞く】表現の面白さ【書く】表現の面白さ【読む】表現の面白さ【量】表現の面白さ	5			1	8	五 表現を楽しむ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	4	6	2	2	8	五 表現を楽しむ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道				2
9	五 古典と出会う	古典の面白さ【話す聞く】古典の面白さ【書く】古典の面白さ【読む】古典の面白さ【量】古典の面白さ	4	4	2		9	六 文化をつなぐ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	3	1	3	1	9	六 文化をつなぐ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	4	5		2
10	六 表現を楽しむ	表現の面白さ【話す聞く】表現の面白さ【書く】表現の面白さ【読む】表現の面白さ【量】表現の面白さ	3		3	4	10	七 語りと向きあふ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	2		3	3	10	七 語りと向きあふ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道				3
11	七 自己と対峙する	自己の面白さ【話す聞く】自己の面白さ【書く】自己の面白さ【読む】自己の面白さ【量】自己の面白さ	2	2	2	1	11	八 考えを交流する	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	4	4	5		11	八 考えを交流する	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道			2	1
12	八 考えを交流する	考えの面白さ【話す聞く】考えの面白さ【書く】考えの面白さ【読む】考えの面白さ【量】考えの面白さ	4	4			12	九 語りと向きあふ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	4	1	3		12	九 語りと向きあふ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道			1	3
1	九 語りと向きあふ	語り手の面白さ【話す聞く】語り手の面白さ【書く】語り手の面白さ【読む】語り手の面白さ【量】語り手の面白さ			3	1	1	十 表現を楽しむ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道		5	4	4	1	十 表現を楽しむ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	2			7
2	十 表現を楽しむ	表現の面白さ【話す聞く】表現の面白さ【書く】表現の面白さ【読む】表現の面白さ【量】表現の面白さ	6		5		2	十一 自己と対峙する	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	6	5	4	1	2	十一 自己と対峙する	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道				1
3	十一 自己と対峙する	自己の面白さ【話す聞く】自己の面白さ【書く】自己の面白さ【読む】自己の面白さ【量】自己の面白さ			1	5	3	十二 表現を楽しむ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道			1	2	3	十二 表現を楽しむ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	4			8
4	十二 表現を楽しむ	表現の面白さ【話す聞く】表現の面白さ【書く】表現の面白さ【読む】表現の面白さ【量】表現の面白さ			6	3		十三 表現を楽しむ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道	5	7				十三 表現を楽しむ	和の道【話す聞く】和の道【書く】和の道【読む】和の道【量】和の道			1	1
140			15	30	50	38	140			15	30	50	38	140			11	21	32	20

②「資質・能力シート」

「資質・能力シート」は、本校が設定した育成を目指す資質・能力のうち、当該の単元で特にとのような資質・能力の育成が実現できる（実現できると考える）のかを明らかにしたシートである。平成29年度は、各教科と総合的な学習の時間の全単元について作成した（資料5）。

本シートに示す資質・能力は、「各教科等の資質・能力」について、中教審答申「別添資料」に示された「各教科において育成を目指す資質・能力」として整理されたものを参照した（※3）。

また、「情報活用能力」及び「市民として求められる資質・能力」については、中教審答申「別紙」に示された「情報活用能力を構成する資質・能力」（p.7-8「別紙3-1」）及び「主権者教育で育成を目指す資質・能力」（p.24「別紙5」）を参照した。

各教科は「年間単元配列シート」で示した全単元について、本シートを作成した。特に、「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」については、特に育成することがふさわしいと考える単元及び資質・能力を厳選して、作成することとした。

なお、本シート作成にあたっては、作成者の負担を軽減するため、資質・能力に番号を振り、選択欄に番号を入力することでシートに当該の資質・能力の文言が反映される表計算シートを開発・活用した（資料6）。

資料5 資質・能力シート

（例として数学（第2学年「確率」）を示す）

資質・能力シート

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	数学	学年	2	時期	1～2
単元・題材名	確率				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
知識・技能	・数学的な問題解決に必要な知識		・調査や資料から情報を効果的に調べまとめる技能		
思考力・判断力・表現力等	・日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力		・現実社会の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力		
学びに向かう力・人間性等	・数学的に考えることによる、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを実感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度	・情報や情報技術を通じた効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度等を身に付けていること（情報を多面的・多角的に吟味しその価値を見極めていくこととする態度）			

※3 国語科は p.2「別添2-1」、社会科は p.8「別添3-2」、数学科は p.28「別添4-1」、理科は p.33「別添5-1」、音楽科は p.46「別添8-1」、美術科は p.52「別添9-1」、保健体育科は p.67「別添12-1」、技術・家庭科は p.60「別添11-1」、外国語科は p.72「別添13-1」。

資料6 「資質・能力シート」作成の負担軽減のための表計算シートの画面例（一部）

資質・能力シート

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	美術	学年	2	時期	7～11
単元・題材名	人間の感覚②				
この単元・題材の役割					
知識・技能	各教科において育成を目指す 資質・能力	市民として求められる 資質・能力			番号を選択
	各教科において育成を目指す 資質・能力 ・感性や造形感覚を働かせて、材料や 用具を生かし、表現方法を工夫して、 創造的に表すこと	市民として求められる 資質・能力			

反映

本シートは、平成28年度に作成した第一案に基づいて、平成29年度には、単元の授業に入る前に、授業者が「子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡す」（中教審、2016、p.20）ことや、「家庭や地域、社会の関係者が幅広く活用」（同、pp.20-21）することを目指し、文言の整理や資質・能力の再検討等を行った第二案を作成している（資料7）。

資料7 「資質・能力シート」の第一案（左）と第二案（右）

資質・能力シート						資質・能力シート (ver.2)					
北海道教育大学附属函館中学校						北海道教育大学附属函館中学校					
教科名	社会(地理)	学年	1	時期	4～5	教科名	社会(地理)	学年	1	時期	4～5
単元・題材名	世界の様々な地域（世界の姿）					単元・題材名	世界の様々な地域（世界の姿）				
この単元・題材の役割						この単元・題材の役割					
知識・技能	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力			知識・技能	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
	・我が国の国土とともに世界の諸地域における地域に関する理解（日本や世界の地域構成） ・地図や衛星写真などの遠隔地から、地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。 （情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能）	・調査や統計資料から情報を効果的に調べまとめる技能				・世界の国々と地域区分に関する理解 ・地図や地球儀から、大陸名や海洋名、地球上の位置などの地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能	・地図や地球儀、統計資料を適切に活用するための知識と技能	・統計資料から情報を効果的に調べまとめる技能		
思考力・判断力・表現力等	・確信が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力					思考力・判断力・表現力等	・地球上の国や都市などの位置の表し方や世界を区分する方法、世界の国々の特徴について、確信が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的に説明したり、それらを基に議論したりする力				
	学びに向かう力・人間性等						・地球上の国や都市などの位置の表し方や世界を区分する方法、世界の国々の特徴などの社会的現象について主体的に関わろうとして課題を意欲的に追究する姿				

また、「情報活用能力」と「市民として求められる資質・能力」に関しては、どの教科のどの単元でどの資質・能力の育成を目指した授業が行われているのかを明らかにするとともに、取り組みの有無やその濃淡を明らかにすることを旨として、「『情報活用能力』育成のためのカリキュラム表」及び「『市民として求められる資質・能力』育成のためのカリキュラム表」として整理した（別添資料2及び3）。

（3）単元のデザイン

単元をデザインするときには、「探究の過程」を踏まえて学習内容と学習方法を構成する。

1（2）②において述べたように、本研究での「単元のデザイン」とは、資質・能力の育成を目指すために単元において学習内容や学習方法等を構成することをいう。

特に本研究においては、新学習指導要領「第1章 総則 第2 教育課程の編成 1 各学校の教育目標と教育課程の編成」に注目した。ここでは、次のように述べられている（文科省，2017，pp. 4-5，下線は筆者による）。

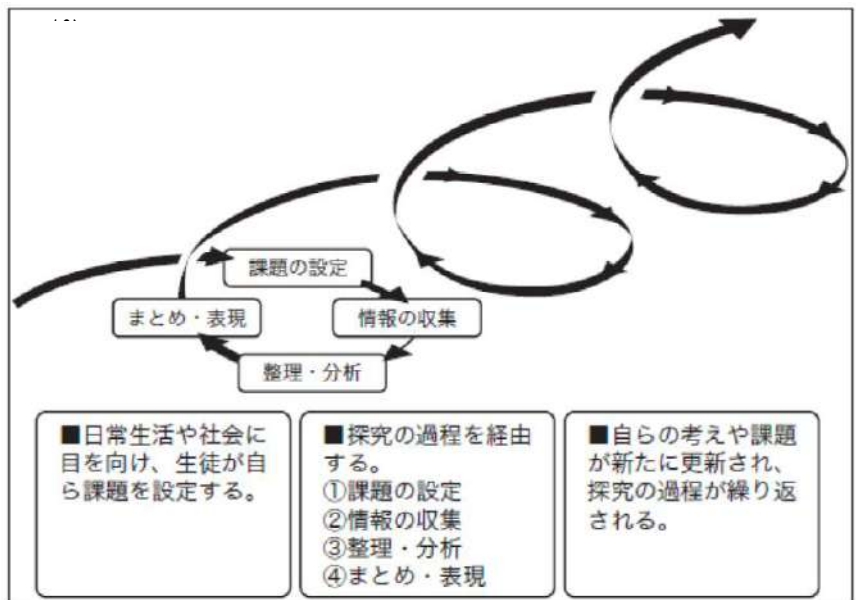
教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第4章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

また他にも、「第3 教育課程の実施と学習評価」では、「問題を見いだして解決策を考えたり」「生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること」を求めている（同，p. 8）。

ここから本研究では、探究的な学習の視点を持って、意図的・計画的に各教科等の単元をデザインすることが重要であると考えた。そこで、各教科等の単元をデザインする際には、単位時間が探究の過程のいずれに該当するのを示すこととした。なお、この際の「探究の過程」は、現行の学習指導要領解説における総合的な学習の時間編に示された「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の4つとした（資料8）。また、単位時間あたりの「探究の過程」は最大で2つとすることとした。

資料8 探究的な学習における生徒の学習の姿

（文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』，2008，



さらに、探究的な学習の中核である総合的な学習の時間を大幅に見直し、これまでの実践の成果を基盤として改善を図り、年次進行で実施することとした。

(4) カリキュラムの改善

「学びの地図」と単元のデザインのよりよい改善を図るために、多様な評価を活用する。

本研究では、単元が終わるたびに評価を実施する。評価としては、①授業者による生徒への評価、②生徒による評価、③教科担当者による評価の3つとする。

①については、これまでの本校の研究成果に基づいて実施する。特に平成23年度「学習指導要領に定められた目標等の実現状況を把握するための評価方法についての研究開発」、平成24年度「言語活動を通じた思考力・判断力・表現力の評価についての組織的な取組」、平成25年度及び26年度の問題発見能力や問題解決能力を見取る問題作成等に関する研究の研究成果を活用しつつ、生徒の達成状況を的確に把握する手立てを検討・実施する。

②については、「資質・能力シート」に示した項目について、生徒が自己評価を行う形式で実施する。

③については、単元において生徒が作成したワークシートや作品等、参観した際の情報に基づいて教科担当者が協議・検討を行うことで実施する。

以上、①から③の評価を踏まえて、「単元デザインシート」及び「資質・能力シート」、「年間単元配列シート」の改善に取り組むこととする。

6 その他の取組

平成 29 年度は、5 に述べた取組のほか、以下の 4 つに取り組むこととする。

(1) 道徳科を見据えた授業実践の蓄積

「道徳科」は、中学校では平成 31 (2019) 年度から全面実施が予定されている。本校のこれまでの「道徳の時間」における授業実践や、附属旭川幼稚園・小学校・中学校が平成 25 年から取り組んできた「12 年道徳」の実践報告を踏まえながら、道徳教育推進教師を中心にして道徳科を見据えた授業実践の蓄積に取り組む。

(2) 「市民として求められる資質・能力」育成の中核としての特別活動の改善

本校が設定した「市民として求められる資質・能力」に関わるものとして、中教審答申では、特別活動の教育内容の改善・充実として「主権者教育の視点として、多様な他者と協働しながら、地域の課題を自分事として捉えて主体的にその解決に関わり、社会に積極的に関わっていく力が今後ますます重要になる」と述べ、特別活動においてその充実を一層図ることを求めている（中教審，2016，p. 233）。また、新学習指導要領「第 5 章 特別活動」においてその目標として、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ」ることなどを通して、解決するための話し合いや合意形成を図ることなどを目指している（文科省，2017，p. 147）。そこで本研究では、「市民として求められる資質・能力」を育成する中核として特別活動の授業開発に取り組んでいく。

(3) 探究的な学びを創るためのリレー講演会（「ツキイチプロジェクト」）

本研究において、探究的な学習の視点を持って各教科等の単元をデザインすることに取り組むことに関わって、生徒が探究的な学習に自主的・自発的に取り組むためには、生徒自身の興味・関心が出発点となると考える。そこで、本校が大学附属であるメリットを活かした教育活動の一環として、北海道教育大学の教員を招聘した各専門分野に関する講演会を継続的に開催し、探究的な学習に欠かすことできない事象に対する興味・関心や知的好奇心を高め広げるとともに、探究の専門家としての大学教員の真理を追究する姿をロールモデルとして学んだりする機会として、「探究的な学びを創るためのリレー講演会（ツキイチプロジェクト）」を開催する。平成 29 年度の開催予定は、資料 9 の通りである。

資料 9 平成 29 年度「ツキイチプロジェクト」（平成 29 年度講師はすべて北海道教育大学函館校の教員）

回	講師名	専門	演題
1	上山 恭男 氏	英語科教育学	「ことばとことばの距離-日本語と英語は近いか遠いか-」
2	本田 真大 氏	教育心理学	調整中
3	木村 育恵 氏	教育社会学	「ジェンダーの視点で学ぶ私たちの多様性」
4	橋本 忠和 氏	美術科教育学	「描画の情報を読み解く-この絵は誰の絵？もしかしてサルの絵？-」
5	金光 秀雄 氏	数理情報工学	「つながり方の数理情報工学-グラフ・ネットワーク理論，4色問題，経路探索-」
6	田中 邦明 氏	理科教育学	「地域や世界の人々と取り組む大沼の自然環境保全-水の汚れの原因とその問題解決策を探求して-」
7	細谷 一博 氏	特別支援教育学	調整中
8	内藤 一志 氏	国語科教育学	「絵本の世界-国語の教科書と比較して-」

7 各教科等が設定する教科研究主題（平成 29 年度）

本研究では、5に示した各教科等で共通した取組を基盤として、具体的な研究推進は各教科等担当者が中心となって取り組むこととする。各教科が研究の方向性や明らかにすべき事柄として設定した教科研究主題は、以下の通りである。

教科名	教科研究主題
国 語	国語科における探究的な学習を実現するための単元構成の工夫・改善
社 会	「単元を貫く学習課題」による探究的な学習を実現する単元構成の工夫・改善
数 学	数学的活動への取組を促し、新たな疑問や問いを導き出すための単元構成の工夫・改善
理 科	理科の見方・考え方を育む、領域の特性を生かしたカリキュラムデザイン
美 術	学びの深まりが自覚できる美術の学習指導を目指して～「図画工作」から「美術」への学びの系統性～
保健体育	「何を、どのように学ぶか」を見通せるようにする単元構成の工夫・改善
外国語	言語能力を構成する資質・能力の育成を目標としたカリキュラムデザイン

8 今後の研究の取組と展開

平成 29 年度は、平成 28 年度末に第一案として整備した「年間単元配列シート」及び「資質・能力シート」に基づいた「単元デザインシート」による各教科等の授業実践を蓄積するとともに、授業実践後の評価を踏まえた改善に取り組む。

また、主に中教審答申に拠った研究 1 年次の研究成果と課題を踏まえながら、研究 2 年次を見通しては、新学習指導要領に述べられている事柄に関する実践研究の展開が必要であると考え。具体的には、研究 1 年次に取り組んだ「資質・能力シート」の文言の整理・改善、新学習指導要領で示された各教科等の目標や内容についての整理や各教科等の「見方・考え方」に関する実践研究の蓄積、学習評価の在り方の検討、教科等横断的な視点での教育課程の編成、小学校及び高等学校などとの間の連携などに取り組む必要があると考えている。

（文責 研究部長 郡司 直孝）

本稿においては、以下より引用を行なっている。

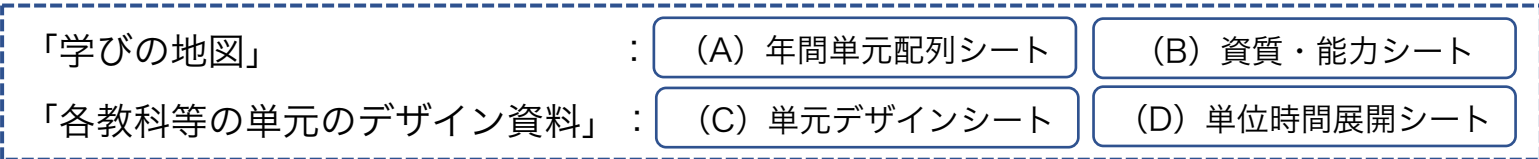
- ・中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」平成 28 年 12 月 21 日，
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380731_00.pdf（平成 29 年 5 月 29 日アクセス）
- ・文部科学省『中学校学習指導要領』平成 29 年 3 月 31 日，
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/05/12/1384661_5_2.pdf（平成 29 年 5 月 29 日アクセス）
- ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』，2008 年，教育出版

また、本稿執筆にあたって参考にした主な文献等は、以下の通りである。

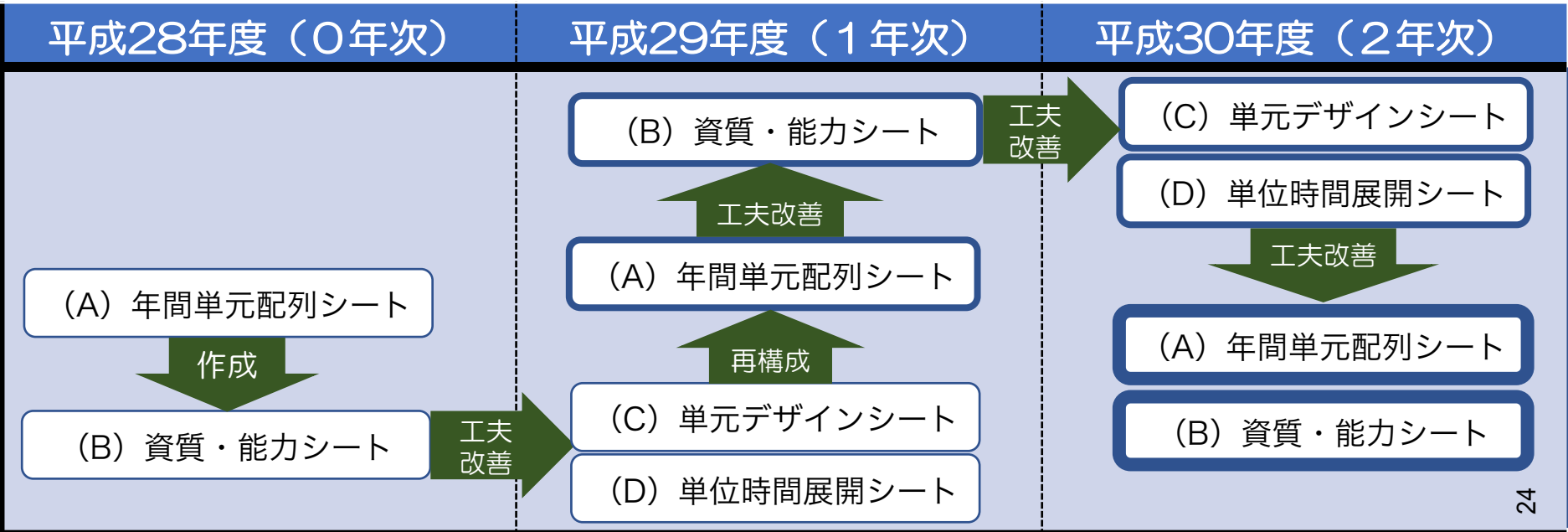
- ・北海道教育大学附属函館中学校 研究紀要
- ・文部科学省『中学校学習指導要領』，平成 20 年 3 月
- ・文部科学省初等中等教育局教育課程課「主権者として求められる資質・能力を育む教育の推進」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 967 号（平成 28 年 12 月），pp.10-13，学事出版
- ・桑原敏典「主権者として求められる資質・能力を育むための学校教育改革に向けて」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 967 号（平成 28 年 12 月），pp.14-19，学事出版
- ・文部科学省生涯学習政策局情報教育課「情報活用能力を育む教育の推進」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 969 号（平成 29 年 2 月），pp.14-17，学事出版
- ・小柳和喜雄「情報活用能力の実態とそれに対応した教育の推進」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 967 号（平成 29 年 2 月），pp.18-23，学事出版
- ・文部科学省初等中等教育局教育課程課「教育課程全体の改善の基本的な方向性」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 971 号（平成 29 年 4 月），pp.10-21，学事出版
- ・無藤隆「『社会に開かれた教育課程』と次期学習指導要領等」，文部科学省教育課程課編集『中等教育資料』第 971 号（平成 29 年 4 月），pp.22-25，学事出版
- ・教育課程研究会編著『「アクティブ・ラーニング」を考える』，2016 年，東洋館出版社
- ・溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』，2014 年，東信堂
- ・小玉重夫『シティズンシップの教育思想』，2003 年，白澤社
- ・小玉重夫『学力幻想』，2013 年，筑摩書房
- ・長沼豊，バーナード・クリックら『社会を変える教育-英国のシティズンシップ教育とクリック・レポートから』，2012 年，キーステージ 2 1
- ・東京大学教育学部カリキュラム・イノベーション研究会『カリキュラム・イノベーション-新しい学びの創造へ向けて』，2015 年，東京大学出版会

「学びの地図」 ・ 「各教科等の単元のデザイン資料」 の整備計画 (ver1)

別添資料1



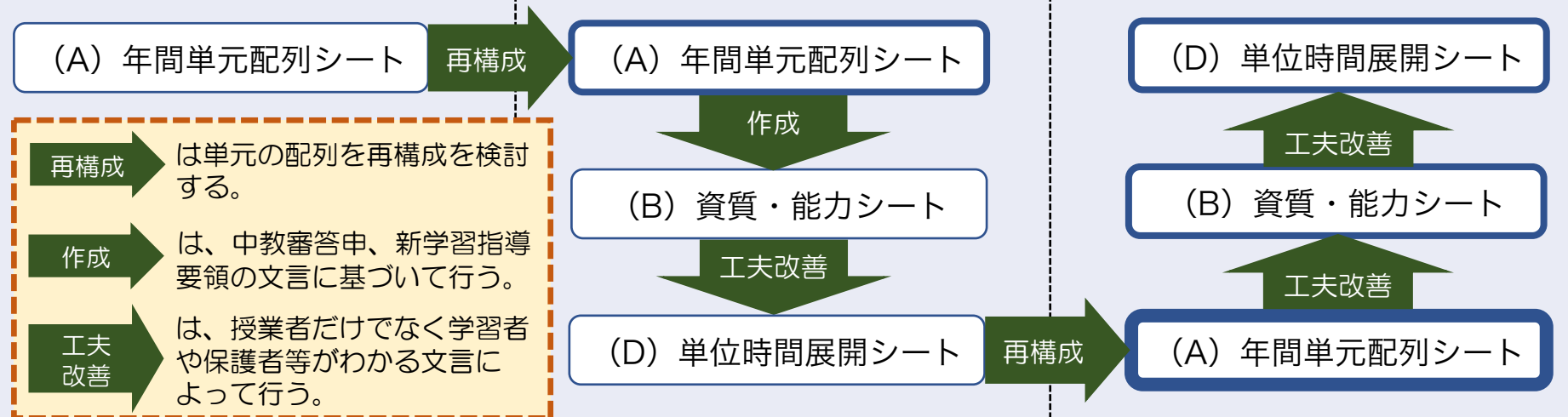
各教科・探究



担当者による整備

24

道徳・特別活動



学年による整備

再構成 → は単元の配列を再構成を検討する。

作成 → は、中教審答申、新学習指導要領の文言に基づいて行う。

工夫改善 → は、授業者だけでなく学習者や保護者等がわかる文言によって行う。

別添資料 2

「情報活用能力」育成のためのカリキュラム表 (ver.3)

資質・能力の3つの柱と要素		国語	社会	数学	理科	美術	保健体育	外国語	探究	
知識・技能	情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	①「二 関係を見いだす」 ①「三 世界をひらく」	地「世界の様々な地域（世界の姿）」 地「世界の様々な地域（世界のさまざまな地域の調査）」 地「日本の様々な地域（日本の姿）」 地「日本の様々な地域（身近な地域の調査）」	①「正負の数」 ①「資料の分析と活用」	①「粒子 身のまわりの物質・身のまわりの物質とその性質」	①「愛情たっぷり図鑑弁当」	①「心身の機能の発達と心の健康」	①「Unit 0」 ①「Unit 1」 ①「Unit 5」 ①「Unit 6」 ①「Unit 8」 ①「Unit 9」 ①「Unit 11」 ①「Let's Read」	①探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習A【主に国語に関する事柄】 ①探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習B【主に数学に関する事柄】 ①探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習C【主に情報活用に関する事柄】	
	情報と情報技術を活用して問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について情報の科学的な情報に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。	②「三 自己をひらく」 ③「六 語りと向き合う」	歴「歴史のとらえ方（歴史の流れをとらえよう）」	②「生命 動物の生活と生物の変遷・動物のからだのつくりとほたらき」 ②「生命 動物の生活と生物の変遷・動物の分類」 ②「生命 動物の生活と生物の変遷・生物の変遷と進化」						②卒業研究 ③学びを生かした地域貢献
	情報と情報技術を活用して問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解	①「七 発想を広げる」 ②「六 宿者と生きる」 ③「四 論理を問う」	歴「近代の日本と世界（韓国と近代日本の歩み・欧米の進出と日本の開国）」 歴「近代の日本と世界（いどの世界大戦と日本・第一次世界大戦と日本）」	②「式の計算」			①「西洋の美 日本の美」 ①「いきいきした花」 ①「愛情たっぷり図鑑弁当」	②「健康と環境」 ②「歯書の防止」	①「Unit 2」 ①「Unit 3」 ①「Unit 7」 ①「Unit 11」	①グループ探究活動A
	情報社会の進展とそれが社会に果たす役割と及ぼす影響についての理解	③「一 言葉を探る」	公「私たちと現代社会（現代社会と私たちの生活）」	③「多項式」 ③「平方根」 ③「相似な図形」 ③「円」 ③「三平方の定理」	③「地球と私たちの未来のために・科学技術と人間」			③「体育理論」 ③「健康な生活と病気の予防」	①「Unit 7」 ①「Unit 9」	②卒業研究 ③学びを生かした地域貢献
情報に関する法・制度やマナーの意義と情報社会において個人が果たす役割や責任についての理解							③「体育理論」 ③「健康な生活と病気の予防」	③「Unit 4」	①探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習C【主に情報活用に関する事柄】	
思考力・判断力・表現力等	様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉える力	①「六 説明を比べる」 ②「四 表現を見つめる」 ③「二 関係を生きる」	地「世界の様々な地域（世界各地の人々の生活と環境）」 地「日本の様々な地域（世界から見た日本の姿）」 歴「古代までの日本（古代国家の歩みと東アジア世界）」	①「比例と反比例」 ①「資料の分析と活用」	①「生命 植物の世界・花のつくりとほたらき」 ①「生命 植物の世界・葉のつくりとほたらき」 ①「生命 植物の世界・植物の分類」 ①「地球 大地の変化・火をかく大地」 ①「地球 大地の変化・動き続ける大地」 ①「地球 大地の変化・地層から読みとる大地の変化」 ①「粒子 身のまわりの物質・気体の性質」 ①「粒子 身のまわりの物質・水溶液の性質」 ①「粒子 身のまわりの物質・物質の変と状態変化」	①「西洋の美 日本の美」	①「体育理論」 ①「心身の機能の発達と心の健康」	①「Unit 4」		
	問題の発見・解決に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力	①「七 発想を広げる」 ①「八 考えを共有する」 ②「七 自己と対話する」	歴「中世の日本（東アジア世界との関わりと社会の変遷）」 歴「近代の日本と世界（いどの世界大戦と日本・第二次世界大戦と日本）」	②「1次関数」 ②「連立方程式」 ③「2次方程式」	②「原子 化学変化と原子分子・物質どうしの化学変化」 ②「原子 化学変化と原子分子・酸素がかわる化学変化」 ②「生命 動物の生活と生物の変遷・生物と細胞」				①グループ探究活動A	
	相手や状況に応じて情報を適切に発信したり、発信者の意図を理解したりする力	①「七 発想を広げる」 ③「七 対話をひらく」	歴「中世の日本（東アジア世界との関わりと社会の変遷）」 歴「近代の日本と世界（いどの世界大戦と日本・第二次世界大戦と日本）」				①「愛情たっぷり図鑑弁当」	②「健康と環境」 ②「歯書の防止」	①「Let's Read」	①ツキイチプロジェクト
	複数の情報を結びつけて新たな意味を見いだしたり、自分の考えを深めたりする力	②「八 考えを交流する」 ③「四 論理を問う」	歴「近代の日本と世界（韓国と近代日本の歩み・明治維新）」 公「私たちと経済（私たちの暮らしと経済）」 公「3年間のまとめ」	②「三角形と四角形」 ③「関数y=ax ² 」	②「原子 化学変化と原子分子・化学変化と物質の質量」		②「彫刻家 高村光太郎」	③「健康な生活と病気の予防」	③「Unit 0」 ③「Unit 1」 ③「Unit 2」 ③「Unit 5」 ③「Unit 6」 ③「Let's Read 3」	②卒業研究 ③学びを生かした地域貢献 ③ツキイチプロジェクト
学びに向かう力・人間性等	情報を多面的・多角的に吟味しその価値を見極めていくこととする態度	①「六 説明を比べる」 ②「八 考えを交流する」 ③「四 論理を問う」	地「世界の様々な地域（世界の諸地域・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州）」 地「日本の様々な地域（日本の諸地域・九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方）」 歴「近代の日本と世界（韓国と近代日本の歩み・明治維新）」 歴「近代の日本と世界（二度の世界大戦と日本・世界恐慌と日本の中国侵略）」	①「空間図形」 ②「確率」	①「エネルギー 身のまわりの現象・音の世界」 ①「エネルギー 身のまわりの現象・力の世界」		②「健康と環境」 ②「歯書の防止」		①グループ探究活動A ①ツキイチプロジェクト	
	自らの情報活用を振り返り、評価し改善しようとする態度	①「二 関係を見いだす」 ①「七 発想を広げる」 ②「七 自己と対話する」 ③「六 語りと向き合う」	歴「歴史のとらえ方（身近な地域の歴史）」 歴「近代の日本と世界（新たな時代の日本と世界）」	②「確率」 ③「確率調査」	②「エネルギー 電気の世界・電流と磁界」 ②「地球 天気とその変化・気象観測と雲のつき方」 ②「地球 天気とその変化・季節とそのまわりの天気の変化」 ②「地球 天気とその変化・大気の動きと日本の天気」			②「健康と環境」 ②「歯書の防止」	②卒業研究 ③ツキイチプロジェクト	
	情報モラルや情報に対する責任について考え行動しようとする態度	②「二 関係を振り返る」 ③「一 言葉を探る」			③「原子 化学変化と原子分子・化学変化と電池」 ③「エネルギー 運動とエネルギー・エネルギーと仕事」 ③「生命 生命の連続性・遺伝・遺伝の規則性と遺伝子」 ③「地球 地球と宇宙・地球の運動と天体の動き」	③「青い目の人形」	③「健康な生活と病気の予防」	③「Unit 2」 ③「Unit 3」	②卒業研究 ③ツキイチプロジェクト	
	情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度	①「三 世界をひらく」 ②「三 自己をひらく」 ③「三 歴史をひらく」	歴「近代の日本と世界（戦後日本の発展と国際社会）」 歴「近代の日本と世界（新たな時代の日本と世界）」	①「1年間のまとめ」 ②「三角形と四角形」 ③「1年間のまとめ」	③「地球と私たちの未来のために・持続可能な社会をつくるために」			③「健康な生活と病気の予防」	③「Unit 0」	②卒業研究 ③学びを生かした地域貢献
				③「地球と私たちの未来のために・科学技術と人間」			①「心身の機能の発達と心の健康」 ③「健康な生活と病気の予防」		①探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習C【主に情報活用に関する事柄】	

別添資料 3

「市民として求められる資質・能力」育成のためのカリキュラム表 (ver.2)

資質・能力の3つの柱と要素	国語	社会	数学	理科	美術	保健体育	外国語	探究
知識・技能	現実社会の諸課題（政治、経済、法など）に関する現状や制度及び概念についての理解	歴「近代の日本と世界（開国と近代日本の歩み・明治維新）」 公「私たちが政治（個人の尊重と日本国憲法）」 公「私たちが政治（現代の民主政治と社会）」 公「私たちが経済（私たちの暮らしと経済）」		③「地球と私たちの未来のために・科学技術と人間」		①「心身の機能の発達と心の健康」 ②「健康と環境」 ②「傷害の防止」 ③「体育理論」 ③「体育理論」	③「Unit6」	②グループ探究活動B ②卒業研究
	①「一 言葉で意味づける」 ①「三 世界をひらく」 ①「五 古典と出会う」	地「世界の様々な地域（世界の姿）」 地「世界の様々な地域（世界各地の人々の生活と環境）」 地「世界の様々な地域（世界の諸地域・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州）」 地「世界の様々な地域（世界のさまざまな地域の調査）」 地「日本の様々な地域（日本の姿）」 地「日本の様々な地域（世界から見た日本の姿）」 地「日本の様々な地域（日本の諸地域・九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方）」 地「日本の様々な地域（身近な地域の調査）」	①「資料の分析と活用」	①「生命 植物の世界・花のつくりとはたらき」 ①「生命 植物の世界・葉と根のつくりとはたらき」 ①「生命 植物の世界・植物の分類」 ①「地球 大地の変化・火をふく大地」 ①「地球 大地の変化・動き続ける大地」 ①「地球 大地の変化・地層から読みとる大地の変化」 ①「粒子 身のまわりの物質・気体の性質」 ①「粒子 身のまわりの物質・物質の姿と状態変化」	①「西洋の美 日本の美」	①「体育理論」 ①「心身の機能の発達と心の健康」		①探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習A【主に国語科に関する事柄】 ②探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習B【主に数学科に関する事柄】 ③探究のための基礎的・基本的なスキル習得と演習C【主に情報活用に関する事柄】
	調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能	②「四 表現を見つめる」 ②「五 伝統を見いだす」 ③「五 文化をつなぐ」	歴「歴史のどらえ方（歴史の流れをとらえよう）」 公「私たちが国際社会の諸課題（より良い社会を目指して）」 公「3年間のまとめ」	②「確率」 ③「標本調査」	②「エネルギー 電気の世界・電流の性質」 ②「生命 動物の生活と生物の変遷・生物と細胞」 ②「生命 動物の生活と生物の変遷・動物のからだのつくりとはたらき」 ②「生命 動物の生活と生物の変遷・動物の分類」 ②「生命 動物の生活と生物の変遷・生物の変遷と進化」 ②「地球 天気とその変化・気象観測と雲のでき方」 ②「地球 天気とその変化・前線とそまわりの天気の変化」 ②「地球 天気とその変化・大気の動きと日本の天気」			③「Unit2」 ③「Unit3」 ③「Let's Read 1」 ③「Let's Read 3」
思考力・判断力・表現力等	現実社会の諸課題について、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断する力	②「二 関係を掘り起こす」 ③「二 関係を生きる」	歴「近代の日本と世界（二度の世界大戦と日本・第一次世界大戦と日本）」 歴「近代の日本と世界（二度の世界大戦と日本・世界恐慌と日本の中国侵略）」 公「私たちが政治（個人の尊重と日本国憲法）」 公「私たちが経済（私たちの暮らしと経済）」 公「私たちが国際社会の諸課題（より良い社会を目指して）」 公「3年間のまとめ」	②「確率」 ③「関数 $y=ax^2$ 」	③「地球と私たちの未来のために・自然のなかの生物」 ③「地球と私たちの未来のために・自然環境の調査と保全」 ③「地球と私たちの未来のために・科学技術と人間」	③「球技（ベースボール型）」 ①「球技（ネット型）」 ①「心身の機能の発達と心の健康」		①ツキイチプロジェクト ②ツキイチプロジェクト ③卒業研究 ③ツキイチプロジェクト
	現実社会の諸課題の解決に向けて、協働的に追究し根拠をもって主張するなどして合意を形成する力	①「八 考えを共有する」 ②「七 自己と対話する」 ③「七 対話をひらく」	地「日本の様々な地域（身近な地域の調査）」 歴「近代の日本と世界（二度の世界大戦と日本・第二次世界大戦と日本）」 公「私たちが経済（私たちの暮らしと経済）」 公「私たちが国際社会の諸課題（地球社会と私たち）」 公「私たちが国際社会の諸課題（より良い社会を目指して）」 公「3年間のまとめ」	③「2次方程式」 ③「相似な図形」 ③「三平方の定理」	③「地球と私たちの未来のために・持続可能な社会をつくるために」	①「愛情たっぷり函館弁当」 ②「彫刻家 高村光太郎」	②「球技（ゴール型）」 ②「体育理論」 ②「球技（ネット型）」 ②「健康と環境」 ②「傷害の防止」 ③「体育理論」 ③「球技（ゴール型）」 ③「球技（ゴール型）」 ③「球技（ネット型）」 ③「健康な生活と病気の予防」	③「Unit2」 ③「Unit3」 ③「Let's Read 1」 ③「Unit6」 ③「Let's Read 3」
学びに向かった力・人間性等	自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に国家・社会の形成に主体的に参画しようとする力	②「八 考えを交流する」 ③「三 歴史をひらく」	歴「歴史のどらえ方（身近な地域の歴史）」 歴「現代の日本と世界（戦後日本の発展と国際社会）」 歴「現代の日本と世界（新たな時代の日本と世界）」 公「私たちが国際社会の諸課題（地球社会と私たち）」 公「私たちが国際社会の諸課題（より良い社会を目指して）」 公「3年間のまとめ」			①「球技（ベースボール型）」 ①「体育理論」 ①「球技（ネット型）」 ①「心身の機能の発達と心の健康」 ②「体育理論」 ②「球技（ネット型）」 ②「武道」 ②「健康と環境」 ②「傷害の防止」 ③「体育理論」 ③「体育理論」 ③「体育理論」 ③「健康な生活と病気の予防」	③「Unit3」 ③「Let's Read 1」 ③「Unit4」	③学びを生かした地域貢献

平成29年度 年間単元配列シート【国語科】

北海道教育大学附属函館中学校

月	第1学年					月	第2学年					月	第3学年								
	単元	教材・題材	話・聞	書く	読む		言語	単元	教材・題材	話・聞	書く		読む	言語	単元	教材・題材	話・聞	書く	読む	言語	
4	言葉と出会う 一 言葉で意味づける	ふしぎ/声を出そう【話す聞く】感想を伝え合おう【書く】記録をしよう 音を追いかけて 漢字の広場1 漢字の部首 【書く】体験したことを文章にする 【話す聞く】お気に入りの一品を紹介する	1	1	1	4	4	一 言葉が照らし出す 虹の足 【話す聞く】質問する力をつける タオル 【話す聞く】図表を用いて提案する	1		2	5	4	一 言葉を探る 春に 【話す聞く】「言でまとめ一言から広げる」 立ってくる春 私	1		1				
5		【書く】お気に入りの一品を紹介する	2			5	5	言葉の小窓1 方言と共通語 書き1				2	5	【書く】広告を批評する 漢字の広場1 吳音・漢音・唐音 書き1		3			1		
6	二 関係を見いだす	笑顔という魔法 【話す聞く】フリップを用いて報告する 言葉の小窓1 日本語の音声 文法の小窓1 言葉の単位 書き2	4		5	6	6	二 関係を掘り起こす 日本の花火の楽しみ 【書く】新聞の投書記事を書く 漢字の広場1 まちがえやすい漢字 言葉の小窓2 話し言葉と書き言葉 三 自己をひらく 夢を跳ぶ 物語を読み解く 文法の小窓1 活用のない自立語文法（解説）1 活用のない自立語 インタビューをしよう		5		5	6	二 関係を生きる 「新しい博物学」の時代 【話す聞く】話を聞いて自分の表現に生かす 漢字の広場2 熟字訓 言葉の小窓1 和語・漢語・外来語 三 歴史をひらく 無言館の青春 【書く】 情報を編集するしかけ	3		5		1		
7	三 世界をひらく	ハンチ 本の紹介文を書こう 写真と言葉が生み出す世界 【書く】芸術作品の鑑賞文を書く		2	2	7	7	四 表現を見つめる 漢字の広場2 漢字の成り立ち 近代の短歌 夏の葬列 【書く】写真から物語を創作する			3	2	8	四 論理を問う 歴史は失われた過去か 文化としての科学技術 【書く】図表などの資料から文章を書く・			3		2		
8	四 表現に立ち止まる	漢字の広場2 画数と活字の字体 河童と蛙 オツベルと象 【書く】行事などの案内文を書く			3	8	8	五 伝統を見いだす 漢字の広場3 漢字の多義性 敦盛の最期 随筆の味わい 二千五百年前からのメッセージ 言葉の小窓3 敬語 書き2			5	1	9	五 文化をつなぐ 言葉の小窓2 活用のある付属語 旅への思い 和歌の調べ 【書く】和歌の鑑賞文を書く 風景と心情 書き2 最後の一句 漢字の広場3 異字同訓 近代の俳句 古典の歌、現代の歌 書き3			4		3		
9	五 古典と出会う	言葉の小窓2 日本語の文字言葉（解説）2 日本語の文字 古典の扉をひらく 物語の始まり 故事成語 書き3			3	9	9	六 他者と生きる 水の山 富士山 ガイアの知性 【話す聞く】話を聞いて自分の考えと比べる・ 【書く】意見文を読み合う 文法の小窓2 活用のある自立語 近代作家新聞を書こう「坊っちゃん」 言葉の小窓4 類義語・対義語・多義語・同音語 書き3			3	2	10	六 語りと向き合う 【書く】自己PR文を読み合う 故郷 【話す聞く】スピーチで学びを振り返る 漢字の広場4 四字熟語 【話す聞く】課題を解決するために話し合う			3		3		
10	六 説明を比べる	蜘蛛の糸 文章の構成や表現の特徴を捉えて読む1 電子レンジの発想 文章の構成や表現の特徴を捉えて読む2 言葉のゆれを考える 文章の構成や表現の特徴を捉えて読む3 花の形に秘められたふしぎ 漢字の広場3 漢字の音と訓 礼状を書こう 【話す聞く】友達のスピーチを聞く 【書く】意見文を読み合う 書き4			3	10	10	七 自己と対話する 学ぶ力 【書く】四コマ漫画から意見文を書く 書き4			3	3	11	七 対話をひらく 【話す聞く】「対話力」とは何か 【書く】自分の作品集をつくる パースティ・ガール 花を贈る・ 自分自身に 書き4			4		1		
11	七 発想を広げる	文法の小窓2 支の成分支法（解説）2 支の成分 漢字の広場4 熟語の構成 言葉がつながる世界遺産 【書く】図表を用いて報告する	4		3	11	11	八 考えを交流する レモン哀歌 文法の小窓3 付属語のいろいろ 漢字の広場4 同音の漢字 走れメロス 【話す聞く】役割を決めて討論する 【書く】お礼の手紙を書く・	4		4	4	12		2		7		1		
12	八 考えを共有する	書き5 四季の詩 少年の日の思い出 【話す聞く】アイデアを出して話し合う 文法の小窓3 単語のいろいろ			3	12	12				4	4	1		4		3		1		
時数			15	30	59	36	時数				16	29	59	36	時数			11	21	52	20
			140								140						104				

平成29年度 年間単元配列シート【社会科】

北海道教育大学附属函館中学校

月	第1学年		月	第2学年		月	第3学年			
	地理的分野	歴史的分野		地理的分野	歴史的分野		歴史的分野	公民的分野		
4	世界の様々な地域 (世界の姿) 7		4		近世の日本 (産業の発達と幕府政治の動き) 9	4	近代の日本と世界 (二度の世界大戦と日本・ 第一次世界大戦と日本) 7			
5	世界の様々な地域 (世界各地の人々の生活と環境) 10		5		日本の様々な地域 (日本の姿) 6	5	近代の日本と世界 (二度の世界大戦と日本・ 世界恐慌と日本の中国侵略) 5			
6			6		日本の様々な地域 (世界から見た日本の姿) 15	6	近代の日本と世界 (二度の世界大戦と日本・ 第二次世界大戦と日本) 7			
7			7			7	現代の日本と世界 (戦後日本の発展と国際社会) 10			
8		8	8	現代の日本と世界 (新たな時代の日本と世界) 6						
9	世界の様々な地域 (世界の諸地域・アジア州) 7	歴史のとらえ方 (歴史の流れをとらえよう) 5	9		近代の日本と世界 (開国と近代日本の歩み・ 欧米の進出と日本の開国) 8	9	日本の歴史をまとめる 5			
10	世界の様々な地域 (世界の諸地域・ヨーロッパ州) 5	古代までの日本 (世界の古代文明と宗教のおこり) 5	10		近代の日本と世界 (開国と近代日本の歩み・ 明治維新) 7	10	私たちが現代社会 (現代社会と私たちの生活) 11			
11	世界の様々な地域 (世界の諸地域・アフリカ州) 4	古代までの日本 (日本列島の誕生と大陸との交流) 3	11		近代の日本と世界 (開国と近代日本の歩み・ 日清・日露戦争と近代産業) 6	11	私たちが政治 (個人の尊重と日本国憲法) 14			
12	世界の様々な地域 (世界の諸地域・北アメリカ州) 5		12		日本の様々な地域 (日本の諸地域・九州地方) 6	12		私たちが政治 (現代の民主政治と社会) 24		
1	世界の様々な地域 (世界の諸地域・オセアニア州) 4		1		日本の様々な地域 (日本の諸地域・中国・四国地方) 6	1			11	私たちが経済 (私たちの暮らしと経済) 23
2	世界の様々な地域 (世界の諸地域・南アメリカ州) 4		2		日本の様々な地域 (日本の諸地域・近畿地方) 6	2			12	
3	世界の様々な地域 (世界のさまざまな地域の調査) 6		3		日本の様々な地域 (日本の諸地域・中部地方) 6	3			12	
		中世の日本 (武士の台頭と鎌倉幕府) 6			日本の様々な地域 (日本の諸地域・関東地方) 6			私たちが国際社会の諸課題 (地球社会と私たち) 15		
		中世の日本 (東アジア世界との関わりと社会の変動) 9			日本の様々な地域 (日本の諸地域・東北地方) 6			私たちが国際社会の諸課題 (より良い社会を目指して) 13		
		近世の日本 (ヨーロッパ人との出会いと全国統一) 8			日本の様々な地域 (日本の諸地域・北海道地方) 6			3年間のまとめ		
		近世の日本 (江戸幕府の成立と鎖国) 7			日本の様々な地域 (身近な地域の調査) 5					
時数	52	53			68	37		40	100	
	105				105			140		
	地理的分野 120				歴史的分野 130			公民的分野 100		

平成29年度 年間単元配列シート【数学科】

北海道教育大学附属函館中学校

月	第1学年				月	第2学年				月	第3学年			
	数と式	関数	図形	資料の活用		数と式	関数	図形	資料の活用		数と式	関数	図形	資料の活用
4	正負の数(26)				4	式の計算(16)				4	多項式(20)			
5					連立方程式(15)	5				平方根(18)				
6	文字と式(20)													
7														
8	方程式(18)													
9														
10		比例と反比例(18)												
11														
12			平面図形(19)											
1														
2				空間図形(21)										
3	資料の分析と活用(11)													
3	1年間のまとめ(7)				3	1年間のまとめ(5)				3	3年間のまとめ(10)			
時数	64	18	40	11		31	20	38	11		56	15	49	10
	140					105					140			

平成29年度 年間単元配列シート【理科】

北海道教育大学附属函館中学校

月	第1学年		月	第2学年		月	第3学年	
	単元	章(題材)		単元	章(題材)		単元	章(題材)
4	粒子 身のまわりの物質(27)	1章身のまわりの物質とその性質(8)	4	エネルギー 電気の世界(35)	1章静電気と電流(7)	4	生命 生命の連続性 生殖(24)	1章生物の成長と生殖(14)
5		身近な生物観察(7)	5		2章電流の性質(14)	5		粒子 化学変化とイオン(27)
6	生命 植物の世界(30)	1章花のつくりとはたらき(6)	6		3章電流と磁界(14)	6	2章化学変化と電池(8)	
7		2章葉茎根のつくりとはたらき(12)	7		地球因気とその変化(31)	7	3章酸アルカリとイオン(10)	
8	3章植物の分類(5)	8	1章気象観測と雲のでき方(14)	8	生命の連続性 生殖(24)	2章遺伝の規則性と遺伝子(10)		
9	粒子 身のまわりの物質(27)	2章気体の性質(5)	9	地球 天気とその変化(31)	2章前線とそのまわりの天気の変化(6)	9	エネルギー 運動とエネルギー(31)	2章力の規則性(8)
10		3章水溶液の性質(7)	10		3章大気の動きと日本の天気(10)	10		3章エネルギーと仕事(13)
11	4章物質の姿と状態変化(7)	11	生命 動物の生活と生物の変遷(40)		1章生物と細胞(4)	11	地球 地球と宇宙(26)	1章宇宙の広がり(8)
12	エネルギー 身のまわりの現象(26)	1章光の世界(10)		2章動物のからだのつくりとはたらき(16)	12	2章地球の運動と天体の動き(12)		
1		2章音の世界(5)		12	3章動物の分類(8)	1		3章月と惑星の見え方(6)
2	3章力の世界(11)	1		4章生物の変遷と進化(12)	2	地球と私たちの未来のために(32)	1章自然のなかの生物(6)	
3	地球 大地の変化(22)	1章火のふく大地(7)	2	粒子化学変化と原子分子(35)	1章物質のなり立ち(8)	3	2章自然環境の調査と保全(6)	
4		2章動き続ける大地(5)	3	2章物質どうしの化学変化(8)	4	3章自然の恵みと災害(6)		
5	地球 大地の変化(22)	3章地層から読みとる大地の変化(10)	4	3章酸素がかかわる化学変化(6)	5	4章科学技術と人間(9)		
6		粒子 化学変化と原子分子(35)	4章化学変化と物質の質量(8)	6	4章化学変化と物質の質量(8)	6	終章持続可能な社会をつくるために(5)	
7				5章化学変化とその利用(5)	7			
時数	105			140			140	

※ 単元名、章名(題材名)及び時数は、本校が使用している東京書籍の教科書を目安として掲載しているため、実際に行う学習活動名及び時数とは一致しない場合がある。

平成29年度 年間単元配列シート【音楽科】

北海道教育大学附属函館中学校

月	第1学年	月	第2学年	月	第3学年
4	歌詞の内容や曲想を捉えて(5)【表現】	4	絵画と音楽のかかわり(5)【鑑賞】	4	情景を思い浮かべて(5)【表現】
5		5		5	
6	情景と音楽(8)【鑑賞】	6	日本の美しい情景を表す歌(5)【表現】	6	音色と響き(5)【鑑賞】
7		7		7	
8	混声合唱の豊かな響きを楽しもう(11)【表現】	8	混声合唱の豊かな響きを味わおう(10)【表現】	8	混声合唱の豊かな響きを味わおう(10)【表現】
9		9		9	
10		10		10	
	オーケストラの豊かな響きを味わおう(5)【鑑賞】				
11	旋律を作ってソプラノリコーダーで奏しよう(6)【表現】	11	オペラの魅力を味わおう(5)【鑑賞】	11	
12	箏に親しもう(6)【表現】	12	俳句を基に旋律をつくって、箏を奏でながらうたおう(6)【表現】	12	音楽を自由に構成しよう(5)【表現】
1		1		1	
2	思いを込めて歌おう ～卒業式・式歌～(4)【表現】	2	思いを込めて歌おう ～卒業式・式歌～(4)【表現】	2	思いを込めて歌おう～卒業記念合唱～(4)【表現】
3		3		3	
時数	45		35		35

平成29年度 年間単元配列シート【美術科】

北海道教育大学附属函館中学校

月	第1学年		月	第2学年		月	第3学年	
4	オリエンテーション(1)	・Artだいすき作戦	4	私であるⅡ(1) 【表現】	・『豊かな』手の表現	4	私であるⅢ(1) 【表現】	『決意の』手の表現
	私であるⅠ(1) 【表現】	・『振り返りの』手の表現		モダンテクニックの整理(9)【演習】 カラーージュ(+)プラス	チャレンジ! ・【フロッターージュⅡ】、スタンピング ・デカルコマニー ・マーブリング ・お気に入りの制作ノート ・パチック、スクラッチ ・ドリッピング ・スパッタリング ・カラーージュ ・カラーージュプラス 『ゆれてはじける』		テーマから表現(2) 【表現】	間隔の感覚③ 太古の神秘
	素描の基礎(6) 『見方・感じ方の達人』 【演習】	・私らしい手 ・感覚の感覚① ・赤いりんご ・カチカチピカピカスプーン ・右脳トシ ・黒いひも 白いひも					5	5
5	5	6	6	6	7	7	7	
6	彩色の基礎(6) 『ハコダテの色いろいろ』 【演習+表現】	・色の魅力発見 ・ワタシの色(人生のバイオリズム) ・ハコダテの色いろいろ(私の町編) ・ハコダテの色いろいろ(私の街編) (鑑賞:時代のいろ～時層色還～) ・夢色の卵へ～私は今～【①】	7	彫刻家 高村光太郎(1) 【鑑賞】	・乙女の像の真実	8	8	8
7	西洋の美 日本の美(1) 【鑑賞】		8	季節感を感じて(2) 【演習】	・間隔の感覚②	9	9	9
8	いきいきした花(3) 【表現】	・花の構造 ・下絵の構図・ ・夢色の卵へ【②】	9	いのりの形(12) 【表現】	・仏教彫刻の世界によごそ ・立体エスキースに挑戦 ・慈悲・哀愁・怒号・号泣の美	10	10	10
9	いきいきした花(9) 【表現】	・彫りへのこだわり ・版画の魅力 ・夢色の卵へ【③】	10	10	10	11	11	11
10	くらべてくらべて(1) 【鑑賞】	・構図の秘密	11	11	11	12	12	12
11	素描の基礎(3) 『見方・感じ方の達人2』 【演習】	・右脳トシ ・黒いひも 白いひも	12	立体マンダラ(10) 【総合・共同】	・私の中のマンダラ ・地水火風空エレメントの構想	1	1	1
12	愛情たっぷり函館弁当(6) 【総合】	・プロダクトデザインを斬る ・商品開発企画会議をしようⅠ ・デザイン技術部門検定! ・夢色の卵へ【④】	1	1	1	2	2	2
1	愛情たっぷり函館弁当(7) 【総合】	・プロジェクトチーム結成 ・商品開発プレゼン資料作成 ・商品企画 校内コンペ ・プレゼン分析	2	2	2	3	3	3
2	2	2	3	3	3	1	1	1
3	3	3	1	1	1	2	2	2
3	夢色の卵へ～私の時層色環～	・夢色の卵へ【5】 【フロッターージュⅠ】	2	2	2	3	3	3
時数	45		時数	35		時数	35	

平成29年度 年間単元配列シート【保健体育科】

北海道教育大学附属函館中学校

月	第1学年		月	第2学年		月	第3学年	
	体育分野	保健分野		体育分野	保健分野		体育分野	保健分野
	オリエンテーション			オリエンテーション			オリエンテーション	
4	体づくり理論	心身の機能の発達と心の健康	4	体づくり理論	健康と環境 傷害の防止	4	体づくり理論	健康な生活と病気の予防
5	体育理論		5	体育理論		5	体育理論	
6	陸上競技		6	陸上競技		6	陸上競技	
7	球技（ベースボール型）		7	球技（ゴール型）		7	球技（ゴール型）	
8	水泳		8	水泳		8	水泳・着衣泳法	
9	体育理論		9	体育理論		9	体育理論	
10	器械運動		10	球技（ネット型）		10	球技（ゴール型）	
11	ダンス		11	武道		11	球技（ネット型）	
12	武道		12	体育理論		12	体育理論	
1	球技（ネット型）		1	器械運動		1	個人選択種目 （卓球・バドミントン）	
2			2			2		
3			3			3		
時数	94	11		88	17		88	17
	105			105			105	

平成29年度 年間単元配列シート【外国語科】

北海道教育大学附属函館中学校

第1学年			第2学年			第3学年		
月	単元名	題材・内容	月	単元名	題材・内容	月	単元名	題材・内容
4	Hi, English! Unit 0	小学校のふり返り アルファベット	4	Unit 0	My Spring Vacation A friend in a Sister School	4	Unit 0	Countries around the World Pop culture Then and Now
	学び方コーナー1 Unit 1	単語の書き方 はじめまして		Unit 1			Unit 1	
5	学び方コーナー2 Unit 2	文の書き方 学校生活	5	Daily Scene 1	日記 A Trip to the U.K.	5	Daily Scene 1 Presentation 1	食事の会話 日本文化紹介 From the Other Side of the Earth
	まとめと練習1 学び方コーナー3 Unit 3	be動詞 辞書の使い方1 わたしの好きなこと		Unit 2			Unit 2	
6	まとめと練習2 Listening Activity 1	一般動詞 何のCM?	6	Daily Scene 2 まとめと練習1 学び方コーナー1	ていねいをお願い be動詞のいろいろな働き 辞書の使い方 Career Day	6	Daily Scene 2	手紙 Fair Trade Event
	Unit 4	ホームパーティー		Unit 3			Unit 3	
7	学び方コーナー4 Presentation 1	辞書の使い方2 自己紹介	7	Daily Scene 3 まとめと練習2	メール 不定詞	7	Daily Scene 3 まとめと練習1 学び方コーナー1	さそい 過去分詞 文章のまとめ方
8	Unit 5	学校の文化祭	8	Presentation 1	将来の夢 The Carpenter's Gift	8	Presentation 2	修学旅行 A Mother's Lullaby
	Daily Scene 1	体調をたずねる オーストラリアの兄		Let's Read 1			Let's Read 1	
9	Unit 6		9	Unit 4	Homestay in the United States	9	Unit 4	To Our Future Generations
	Daily Scene 2 まとめと練習3 Listening Activity 2	電話の会話 三人称単数現在形 友だちのプロフィール ブラジルから来たサッカーコーチ		Daily Scene 4 まとめと練習3 学び方コーナー2	電話の会話 助動詞 文の読み方 Universal Design		Daily Scene 4	道案内 Living with Robots -For or Against
10	Unit 7		10	Unit 5		10	Unit 5	
	Daily Scene 3 Unit 8	グリーティングカード イギリスの本		Daily Scene 5	道案内 Rakugo in English		Daily Scene 5	電話の会話 Striving for Better World
11	Daily Scene 4 まとめと練習4 学び方コーナー5 Unit 9	ウェブサイト 代名詞 音の変化 チャイナタウンへ行こう	11	Unit 6		11	Unit 6	
	Daily Scene 5 まとめと練習5 Listening Activity 3 Presentation 2	道案内 進行形 電車のトラブル発生 一日の生活 あこがれのボストン		Daily Scene 6 Presentation 2	詩 町紹介		Daily Scene 6 まとめと練習2 学び方コーナー2 Presentation 3	レポート 後置修飾 5つの文構造 中学校生活
12	Unit 10		12	Let's Read 2	Try to Be the Only One The Movie <i>Dolphin Tale</i>	12	Let's Read 2	The Green Door An Artist in the Arctic
	Daily Scene 6 まとめと練習6 学び方コーナー6 Unit 11	ちょっとお願い 疑問詞 発音記号 思い出の一年		Unit 7			Let's Read 3	
1	Daily Scene 7 まとめと練習7 Listening Activity 4 Presentation 3	絵はがき 一般動詞の過去形 休暇中の出来事 思い出の行事	1	Let's Read 3	Cooking with the Sun	1		
	Let's Read	The Restaurant with Many Orders						
2			2			2		
3			3			3		
時数	140		時数	140		時数	140	

平成29年度 年間単元配列シート【道徳科】

北海道教育大学附属函館中学校

月	第1学年		月	第2学年		月	第3学年	
	内容項目	学習指導要領の記載		内容項目	学習指導要領の記載		内容項目	学習指導要領の記載
4	友情、信頼、相互理解、寛容（SST）	B（3）、B（4）	4	友情、信頼、相互理解、寛容（SST）	B（3）、B（4）	4	友情、信頼、相互理解、寛容（SST）	B（3）、B（4）
	遵法精神、公德心	C（1）		遵法精神、公德心	C（1）		遵法精神、公德心	C（1）
5	友情・信頼	B（3）	5	遵法精神、公德心	C（1）	5	礼儀	B（2）
	思いやり、感謝	B（1）		国際理解、国際貢献	C（9）		相互理解、寛容	B（4）
	真理の探究、創造	A（5）		希望と勇気、克己と強い意志	A（4）		自然愛護	D（2）
6	向上心、個性の伸長	A（3）	6	自然愛護	D（2）	6	真理の探究、創造	A（5）
	礼儀	B（2）		向上心、個性の伸長	A（3）		遵法精神、公德心	C（1）
	希望と勇気、克己と強い意志	A（4）		家族愛、家庭生活の充実	C（5）		勤労	C（4）
	公正、公平、社会正義	C（2）		友情、信頼	B（3）		友情、信頼	B（3）
7	友情、信頼	B（3）	7	社会参画、公共の精神	C（3）	7	家族愛、家庭生活の充実	C（5）
	思いやり、感謝	B（1）		節度、節制	A（2）		我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	C（8）
	生命の尊さ	D（1）		公正、公平、社会正義	C（2）		向上心、個性の伸長	A（3）
	遵法精神、公德心	C（1）		勤労	C（4）		自主、自律、自由と責任	A（1）
8	友情、信頼	B（3）	8	遵法精神、公德心	C（1）	8	生命の尊さ	D（1）
9	自然愛護	D（2）	9	希望と勇気、克己と強い意志	A（4）	9	真理の探究、創造	A（5）
	勤労	C（4）		よりよい学校生活、集団生活の充実	C（6）		公正、公平、社会正義	C（2）
	向上心、個性の伸長	A（3）		思いやり、感謝	B（1）		思いやり、感謝	B（1）
10	感動、畏敬の念	D（3）	10	友情、信頼	B（3）	10	希望と勇気、克己と強い意志	A（4）
	節度、節制	A（2）		礼儀	B（2）		真理の探究、創造	A（5）
	遵法精神、公德心	C（1）		自主、自律、自由と責任	A（1）		よりよい学校生活、集団生活の充実	C（6）
	自主、自律、自由と責任	A（1）		思いやり、感謝	B（1）		遵法精神、公德心	C（1）
11	節度、節制	A（2）	11	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	C（8）	11	友情、信頼	B（3）
	思いやり、感謝	B（1）		生命の尊さ	D（1）		感動、畏敬の念	D（3）
	よりよく生きる喜び	D（4）		節度、節制	A（2）		よりよい学校生活、集団生活の充実	C（6）
	社会参画、公共の精神	C（3）		友情、信頼	B（3）		節度、節制	A（2）
12	よりよく生きる喜び	D（4）	12	相互理解、寛容	B（4）	12	相互理解、寛容	B（4）
	相互理解、寛容	B（4）		相互理解、寛容	B（4）		思いやり、感謝	B（1）
1	家族愛、家庭生活の充実	C（5）	1	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	C（7）	1	国際理解、国際貢献	C（9）
	我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	C（8）		よりよく生きる喜び	D（4）		郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	C（7）
	思いやり、感謝	B（1）		真理の探究、創造	A（5）		思いやり、感謝	B（1）
2	よりよい学校生活、集団生活の充実	C（6）	2	よりよく生きる喜び	D（4）	2	よりよく生きる喜び	D（4）
	勤労	C（4）		感動、畏敬の念	D（3）		よりよい学校生活、集団生活の充実	C（6）
	よりよい学校生活、集団生活の充実	C（6）		真理の探究、創造	A（5）		友情、信頼	B（3）
3	郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	C（7）	3	よりよい学校生活、集団生活の充実	C（6）	3	勤労	B（2）
	国際理解、国際貢献	C（9）		自主、自律、自由と責任	A（1）		社会参画、公共の精神	C（3）
時数	35			35			35	

平成29年度 年間単元配列シート【探究】

北海道教育大学附属函館中学校

第1学年		第2学年		第3学年									
探究基礎		探究充実		探究発展									
4	「探究」及び「探究基礎」オリエンテーション(1)	4		4	研究指導(1) ※水曜日6時間目を実施								
5	探究のための基礎的・基本的な スキル習得と演習A 【主に国語科に関する事柄】 (3) ①聞き取り調査の仕方 ②事前連絡の仕方 ③手紙の書き方、レポートの書き方、 引用や参考文献の示し方	5	グループ探究活動Cオリエンテーション グループ編成調査(1)	5	卒業研究(9) ※水曜日6時間目を実施 ※全教員による指導								
6	探究のための基礎的・基本的な スキル習得と演習B 【主に数学科に関する事柄】 (3) 資料の活用(3)	6	グループオリエンテーション(1)	6	中間発表会(2)								
7	探究のための基礎的・基本的な スキル習得と演習C 【主に情報活用に関する事柄】 (4) ①情報モラル ②GFEの活用(2) ③情報検索	7	グループ内役割の決定、課題の設定(3)	7	研究指導(6) ※月2回、水曜6時間目を実施 ※全教員(18人)による指導								
8	グループ探究活動A (22) ※7人5グループ ※学年団による指導	8	グループ探究活動B (33) ※3人グループ ※教員7名による指導	8	卒業研究(28) ※通常日課に実施 ※学年団による指導								
9		オリエンテーション、グループ編成調査(1)		9		発表準備(24)							
10		グループオリエンテーション(1)		10			※各自で論文を執筆する。 ※論文提出締切は 7月31日16時						
11		課題の設定、訪問先の決定(2) 訪問前事前調査活動(2)		11				※卒業研究成果報告会まで、 必要に応じて生徒各自が事 前連絡を行い訪問学習を行 う。(依頼文書が必要な場 合は指導教員に申し出る)					
12		宿泊研修における訪問学習(3)		12					調査活動(10)				
1		調査活動(7)		1						地域訪問学習(5)			
2		調査活動(3)		2							整理・分析活動 発表資料作成活動(7)		
3		第3回成果報告会(2)		3								第3回成果報告会(2)	
4-7,9-2		「グループ探究活動B」に関する振り返り(1)		4-7,9-2									卒業研究(4)
時数		50		70									
			テーマ設定のための調査(1)										
				卒業研究成果報告会 参加(2)									
					※研究テーマを設定し、異なるグループの教員3名から承諾印を受ける。 ※1月31日までに完了する。								
						グループオリエンテーション(1)							
							研究指導(3)						
								卒業研究(17) ※水曜日6時間目を実施 ※全教員による指導					
									修学旅行における訪問学習(6)※予定				
										研究指導(7)			
											第1回成果報告会(2)		
												「グループ探究活動A」に関する振り返り(1)	
			「卒業研究」に関する振り返り(1)										
				学びを生かした 地域貢献 (14)									
					地域貢献に関するオリエンテーション・講演(1)								
						地域貢献に関する講演会(2)							
							義務教育での学びを生かした地域貢献 (10)						
								「学びを生かした地域貢献」に関する振り返り(1)					
									「探究」に関する振り返り(2)				
										探究的な学びを創るためのリレー講演会 (「ツキイチ」プロジェクト) (16 2×8回)			
											探究的な学びを創るためのリレー講演会 (「ツキイチ」プロジェクト) (16 2×8回)		
												探究的な学びを創るためのリレー講演会 (「ツキイチ」プロジェクト) (16 2×8回)	
			時数										
				70									
					70								

平成29年度 年間単元配列シート【特別活動】

北海道教育大学附属函館中学校

月	第1学年			月	第2学年			月	第3学年		
	学級活動	生徒会活動	学校行事		学級活動	生徒会活動	学校行事		学級活動	生徒会活動	学校行事
4	学級開き	対面式・部活動紹介	(1) 1学期始業式 (1) 入学式	4	2年生になって	対面式・部活動紹介	(1) 1学期始業式 (1) 入学式	4	最上級生としての自覚	対面式・部活動紹介	(1) 1学期始業式 (1) 入学式
	学校生活のきまり	専門委員会			2年生の抱負	専門委員会			学級組織づくり	専門委員会	
	中学生になって	生徒総会			学級組織づくり	生徒総会			修学旅行を終えて①	生徒総会	
	集団と自己の関わり	任命式			学級目標づくり	任命式			修学旅行を終えて②	任命式	
	学級組織づくり				生徒会審議会検討				学級目標づくり		
	ソーシャルスキルトレーニング①				ソーシャルスキルトレーニング①				ソーシャルスキルトレーニング①		
	生徒会議案審議				集団生活の向上				生徒会議案審議		
5	自分を知ろう			5	健康で安全な生活			5	健康で安全な生活		
	安全な生活				体育祭に向けて		(3) 体育祭		体育祭に向けて		(3) 体育祭
	体育祭に向けて		(3) 体育祭								
6	奉仕活動に取り組み	中体連陸上壮行式		6	自分を知ろう	中体連陸上壮行式		6	学習における自分の特徴を考える	中体連陸上壮行式	
	主体的な学習態度	中体連壮行式			主体的な学習態度	中体連壮行式			自己の進路の再検討	中体連壮行式	
7	1学期の反省		(1) 1学期終業式	7	1学期の反省			7	思春期のこころから		
	夏休みの生活設計と学習計画				夏休みの生活設計と学習計画		(1) 1学期終業式		1学期の反省		(1) 1学期終業式
8	夏休みの反省と2学期の目標		(1) 2学期始業式	8	夏休みの反省と2学期の目標		(1) 2学期始業式	8	夏休みの反省と2学期の目標		(1) 2学期始業式
	ソーシャルスキルトレーニング②		(4) 宿泊研修 (5) ?		ソーシャルスキルトレーニング②				ソーシャルスキルトレーニング②		
9	協力して活動することの意義	生徒会役員選挙		9	不安や悩みの解消	生徒会役員選挙		9	梧桐祭に向けて	生徒会役員選挙	(2) 梧桐祭
	梧桐祭に向けて		(2) 梧桐祭		梧桐祭に向けて		(2) 梧桐祭		梧桐祭を終えて	専門委員会	
	梧桐祭を終えて	専門委員会			梧桐祭を終えて	専門委員会					
10	前期の学級の課題			10	前期の学級の課題			10	後期の学級組織づくり		
	後期の学級組織づくり				後期の学級組織づくり				生徒総会の議案審議		
	生徒総会の議案審議	生徒総会			生徒総会の議案審議	生徒総会			ストレスマネジメント	生徒総会	
11	自分らしく生きる	任命式		11	将来の生き方と職業	任命式		11	将来の夢や希望について	任命式	
	将来の生き方と進路選択				学習目標と学習計画				受験期の学習		
	私の希望と職業				奉仕活動の大切さ				受験に向けて①		
12	2学期の反省			12	2学期の反省			12	受験に向けて②		
	冬休みの生活設計と学習計画	受験壮行式	(1) 2学期終業式		冬休みの生活設計と学習計画		(1) 2学期終業式		2学期の反省と冬休みの過ごし方		(1) 2学期終業式
1	冬休みの反省と3学期の目標		(1) 3学期始業式	1	冬休みの反省と3学期の目標		(1) 3学期始業式	1	冬休みの反省と3学期の展望		(1) 3学期始業式
	学習の振り返りと家庭学習について				高校入試のしくみ				受験に向けて③		
2	上級学校について知る			2	自己の進路を探る			2	卒業に向けて①		
	悩みと相談				修学旅行に向けて①				卒業に向けて②		
3	卒業式に向けて			3	修学旅行に向けて②			3	学校生活を充実させる①		
	1学年を振り返って				修学旅行に向けて③				学校生活を充実させる②		
	春休みの過ごし方		(1) 卒業証書授与式		卒業式に向けて				卒業式に向けて③		
	進級にあたって		(1) 修了式		修学旅行を終えて		(1) 卒業証書授与式 (4) 修学旅行?		卒業式に向けて①		(1) 卒業証書授与式
時数	35				35				35		

資質・能力シート (ver.2)

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	国語	学年	2	時期	5～6
単元・題材名	二 関係を掘り起こす				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の働きや役割に関する理解・使い分け ・文章の構造（文と文の関係、段落、段落と文章の関係）に関する理解・使い分け 				
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をいろいろな立場や視点から詳しく調査したり、関係性をとらえて整理したりする力【理解・表現のための創造的・論理的思考—情報と情報の関係性の吟味・構築】 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活における諸課題について、事実をもとにいろいろな立場や視点から考察し、自分の考えをまとめる力 		
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団としての考えを発展・深化させようとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をいろいろな立場や視点から吟味し、その価値を見極めようとする態度 			

単元デザインシート

北海道教育大学附属函館中学校

教科等名	国語科		学年	2		時期	5～6		
単元名	二 関係を掘り起こす								
この単元で育成を目指す資質・能力									
(a)(b)(c)	3つの柱	具体的な資質・能力				評価する時数			
(a)	知識・技能	言葉の働きや役割に関する理解・使い分け				4	8	9	
(a)	知識・技能	文章の構造（文と文の関係、段落、段落と文章の関係）に関する理解・使い分け				1	6	9	
(a)	思考力・表現力・判断力等	情報をいろいろな立場や視点から詳しく調査したり、関係性をとらえて整理したりする力【理解・表現のための創造的・論理的思考—情報と情報の関係性の吟味・構築】				2	3	7	10
(a)	学びに向かう力・人間性等	言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団としての考えを発展・深化させようとする態度				4	7		
(b)	学びに向かう力・人間性等	情報をいろいろな立場や視点から吟味し、その価値を見極めようとする態度				6	10		
(c)	思考力・表現力・判断力等	社会生活における諸課題について、事実をもとにいろいろな立場や視点から考察し、自分の考えをまとめる力				5			
単元の構成									
時数	学習内容 学習方法		探究の過程	評価方法					
1	文章の概要を読み取る（説明文「日本の花火の楽しみ」） 4つの大段落に小見出しをつけ、段落同士の関係をとらえる。序論で示される問いの答えを要約する。		整理・分析	ワークシート（文章の構成を理解し、問いに対する答えを適切にまとめているか）					
2・3	説明の仕方をとらえる（説明文「日本の花火の楽しみ」） 本論における説明の仕方やそこからうかがえる筆者の意図について話し合い、日本の花火の魅力についてまとめる。		整理・分析	ワークシート（説明の仕方をふまえて、日本の花火の魅力についてまとめているか）					
4	筆者のものの見方や考え方をとらえる（説明文「日本の花火の楽しみ」） 結論の述べ方や文末表現に着目し、筆者のものの見方や考え方について話し合う。		整理・分析	観察（グループ活動の様子） ワークシート（表現の仕方に着目して筆者のものの見方や考え方をまとめているか）					
5	自分の考えをまとめる 「日本の〇〇の魅力」について、400字程度の文章で書く。		まとめ・表現	ワークシート（社会や日常生活の中で思い起こされる「魅力」について自分の考えをまとめているか）					
6	学習の流れと重点をつかむ（「新聞の投書記事を書く」） 教科書と教師の説明から学習の流れと重点を理解し、投書記事の特性について話し合う。		整理・分析 課題の設定	観察・ワークシート（投書記事の特性をつかんでいるか）					
7 (本時)	書くための情報を集める（「新聞の投書記事を書く」） 個々の課題作文「日本の〇〇の魅力」を投書記事としてリライトする上で効果的な情報についてグループで話し合う。		情報の収集	観察（グループ活動の様子） ワークシート（いろいろな立場や視点から課題を捉え、必要な情報について考えているか）					
8	集めた情報を吟味し、構成する（「新聞の投書記事を書く」） 集めた情報について吟味し、構成の型にあてはめて自分の考えを整理する。		整理・分析	ワークシート（集めた情報を吟味・整理しているか）					
9	文章を記述し、推敲する（「新聞の投書記事を書く」） 投書記事であることをふまえて600字程度の文章を書き、構成や表現に留意して推敲する。		まとめ・表現	ワークシート（投書記事の特性を意識して、記述・推敲を行っているか）					
10	文章を交流し、評価する（「新聞の投書記事を書く」） 投書記事の特性をふまえて文章を評価し、本単元の学習を振り返る。		整理・分析	ワークシート（投書記事の特性をふまえて評価し、本単元での学びを今後の生活に生かそうとしているか）					

資質・能力シート (ver.2)

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	社会(地理)	学年	1	時期	5～6
単元・題材名	世界の様々な地域 (世界各地の人々の生活と環境)				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 世界のさまざまな地域における、気候や環境、生活の多様性の理解 地図や写真、グラフなどのさまざまな資料から、情報を効果的に集めたり、読み取ったり、まとめたりする技能 		<ul style="list-style-type: none"> 地図や写真、グラフなどのさまざまな資料から、情報を効果的に調べたり、まとめたりする技能 		
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 自分の伝えたいことが明らかになるように、内容を考え、自分の考えを論理立てて説明したり、他者と議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな出来事や状況について、集めた情報と結び付けて考える力 			
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地のさまざまな異なる生活や文化などを大切にしようとする気持ち 				

単元デザインシート

北海道教育大学附属函館中学校

教科等名	社会科		学年	1	時期	5～6		
単元名	世界の様々な地域（世界各地の人々の生活と環境）							
この単元で育成を目指す資質・能力								
(a)(b)(c)	3つの柱	具体的な資質・能力			評価する時数			
(a)	知識・技能	世界のさまざまな地域における、気候や環境、生活の多様性の理解			3	7	10	
(a)	知識・技能	地図や写真、グラフなどのさまざまな資料から、情報を効果的に集めたり、読み取ったり、まとめたりする技能			1	2	4	9
(a)	思考力・表現力・判断力等	自分の伝えたいことが明らかになるように、内容を考え、自分の考えを論理立てて説明したり、他者と議論したりする力			3	7	8	
(a)	学びに向かう力・人間性等	世界各地のさまざまな生活や文化などを大切にしようとする気持ち			10			
(b)	思考力・表現力・判断力等	さまざまな出来事や状況について、集めた情報と結び付けて考える力			5	6	8	
(c)	知識・技能	地図や写真、グラフなどのさまざまな資料から、情報を効果的に調べたり、まとめたりする技能			1	2	4	9
単元の構成								
時数	学習内容 学習方法		探究の過程	評価方法				
1・2	世界に見られる5つの気候帯と11の気候区について 5つの気候帯と11の気候区について授業者による概要説明を踏まえて、5つの気候帯と高山気候の特徴や分布などを調べる6つのグループを編成し、調べ、資料を作成する。		情報の収集 整理・分析	「気候帯等の特徴や分布を説明するのにふさわしい資料を収集・選択し、整理しているか」について、資料作成の様子を観察するとともに、作成された資料を用いて評価する。				
3	世界に見られる5つの気候帯と11の気候区について 1・2に作成した資料を活用して担当した気候帯等の特徴や分布などを伝え、説明する。		情報の収集 整理・分析	「世界のさまざまな地域における、気候や環境、生活の多様性を理解しているか」や「自分の考えを論理立てて説明しているか」について、ノート等への記述を用いて評価する。				
4	気候の特徴と人々の暮らしについて① 1～3で担当した気候帯等で生活する人々の暮らしに関する課題を設定し、解決するための情報を収集する。		課題の発見 情報の収集	「世界各地で生活する人々の暮らしを最もよく表している資料を収集・選択し、整理しているか」について、資料作成の様子を観察することで評価する。				
5・6	気候の特徴と人々の暮らしについて②・③ 気候の特徴と人々の暮らしの関わりを考え、資料を作成する。		情報の収集 整理・分析	「気候の特徴と人々の暮らしの関わりに関してさまざまな情報を結び付けて考えているか」について、資料作成の様子を観察するとともに、作成された資料を用いて評価する。				
7	気候の特徴と人々の暮らしについて④ 5・6に作成した資料を活用した担当した気候帯等の特徴と人々の暮らしの関わりを伝え、説明する。		整理・分析	「世界のさまざまな地域における、気候や環境、生活の多様性を理解しているか」や「自分の考えを論理立てて説明しているか」について、ノート等への記述を用いて評価する。				
8 (本時)	気候と人々の暮らしに関する情報を活用した判断 気候と人々の暮らしに関するさまざまな情報を結び付けて、いずれの気候帯等を示しているかを論理立てて説明し、他者と議論する。		整理・分析 まとめ・表現	「自分の考えを論理立てて説明しているか」や「気候の特徴と人々の暮らしの関わりに関してさまざまな情報を結び付けて考えているか」について、他者との議論の様子を観察するとともに、ノート等への記述を用いて評価する。				
9	世界の主な宗教とその分布について 世界の主な宗教について、授業者による概要説明と主題図に基づいて分布を調べる。		整理・分析 まとめ・表現	「主題図から世界の主な宗教の分布を正しく読み取ることができているか」について、ノート等への記述を用いて評価する。				
10	伝統的な生活とその変化について 世界各地の暮らしの変化について、授業者による概要説明を踏まえて、衣食住をはじめとする文化が変化している例を挙げ、その変化の理由を説明する。		整理・分析 まとめ・表現	「世界のさまざまな地域における、気候や環境、生活の多様性を理解しているか」や「世界各地のさまざまな生活や文化などを大切にしようとする気持ちが高まっているか」について、ノート等への記述を用いて評価する。				

*本単元では、単元を貫く学習課題として、「次のように主張する人の意見に対して、あなたはどのような意見を持ちますか？【世界各地の人々の暮らしは、気候のみから、影響を受けている。】A:賛成、B:少し賛成、C:少し反対、D:反対」を設定し、本単元における単位時間の3・7・10の学習を終えたのちに、生徒が同一のワークシートに記述し続けるという方式で取り組む。

資質・能力シート (ver.2)

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	数学	学年	2	時期	6～9
単元・題材名	1次関数				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事象を1次関数にとらえられるものがあることや1次関数の表、式、グラフの関連などの理解 ・ 1次関数の関係を、表、式、グラフを用いて的確に表現したり、数学的に処理したりする技能 				
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1次関数についての基礎的・基本的な知識や技能を活用して、事象を論理的に考察し表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な事象のなかの2つの数量関係を情報とその結びつきの視点からとらえる力 			
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な事象を1次関数としてとらえたり、数学的に考え表現することに関心を持ち、意欲的に数学の問題を解決する態度 				

単元デザインシート

北海道教育大学附属函館中学校

教科等名	数学科	学年	2	時期	6～9		
単元名	1次関数						
この単元で育成を目指す資質・能力							
(a)(b)(c)	3つの柱	具体的な資質・能力			評価する時数		
(a)	知識・技能	事象を1次関数ととらえられるものがあることや1次関数の表、式、グラフの関連などの理解	2	16	17	18	
(a)	知識・技能	1次関数の関係を、表、式、グラフを用いて的確に表現したり、数学的に処理したりする技能	3	4	5	6	7
			8	9	11	12	13
(a)	思考力・表現力・判断力等	1次関数についての基礎的・基本的な知識や技能を活用して、事象を論理的に考察し表現する力	6	14	17	18	20
(a)	学びに向かう力・人間性等	様々な事象を1次関数としてとらえたり、数学的に考え表現することに興味をもち、意欲的に数学の問題を解決する態度	1	2	15	10	19
(b)	思考力・表現力・判断力等	具体的な事象のなかの2つの数量関係を情報とその結びつきの視点からとらえる力	1	16	18		
単元の構成							
時数	学習内容		探究の過程	評価方法			
	学習方法						
1 (本時)	1次関数の導入		課題の設定	ワークシートへの記述を用いて評価（具体的な事象のなかの2つの数量の間の関係を、表やグラフで調べようとしているか、2つの数量関係の情報を表やグラフなどを使って表すことができるか）			
	具体的な事象のなかの2つの数量関係を調べる		情報の収集				
2	1次関数の意味		整理・分析	ノート等への記述を用いて評価（1次関数を式に表すことができるか）			
	yをxの式で表して、yはxの1次関数であるかどうかを調べる		まとめ・表現				
3	1次関数の値の変化		整理・分析	ワークシートを用いて評価（変化の割合の意味を理解しているか）			
	具体的な事象をもとに、1次関数の変化について調べる		まとめ・表現				
4・5 6・7	1次関数のグラフ		整理・分析	ワークシートへの記述を用いて評価（1次関数のグラフを、切片や傾きをもとにかくことができるか、1次関数の表、式、グラフの関係についてまとめる1次関数のグラフを、切片や傾きをもとにかく）			
	1次関数のグラフと比例のグラフの関係について調べる 1次関数の表、式、グラフの関係についてまとめる 1次関数のグラフを、切片や傾きをもとにかく		まとめ・表現				
8・9	1次関数を求めること		整理・分析	ノート等への記述を用いて評価（グラフの傾きと切片から、または2点の座標から、1次関数を求めることができるか）			
	グラフの傾きと切片を読み取って、1次関数を求める グラフが通る2点の座標から、1次関数を求める		まとめ・表現				
10	問題演習①		まとめ・表現	観察やノート等への記述を用いて評価（既習の学習内容を振り返り、協働的に問題を解決しようとしているか）			
	協働的に問題を解決する						
11・12 13	2元1次方程式のグラフ		課題の設定	ワークシートを用いて評価（2元1次方程式を1次関数とみることができることを理解しているか）			
	2元1次方程式の解を座標とする点をとって、どんなグラフになるかを調べる 2元1次方程式 $ax+by=c$ で、 $a=0$ 、 $b=0$ の場合のグラフをかく、その特徴を調べる		情報の収集				
14	連立方程式とグラフ		整理・分析	ノート等への記述を用いて評価（2元1次方程式のグラフの交点の座標の意味を連立方程式の解と関連づけて考えることができるか）			
	連立方程式の解を、2つの2元1次方程式のグラフをかくて求める		まとめ・表現				
15	1次関数の利用の導入		課題の設定	ワークシートへの記述を用いて評価（具体的な事象を、1次関数とそのグラフを利用して問題を解決しようとしているか）			
	具体的な事象から、1次関数とみなして、問題を解決する		情報の収集				
16・17 18	1次関数の利用（みなすこと、グラフ、図形）		整理・分析	ワークシートを用いて評価（具体的な事象を1次関数ととらえ、それを利用して問題を解決できるか）			
	具体的な事象の中の2つの数量の間の関係を1次関数とみなして、問題を解決する 1次関数のグラフを利用して、身のまわりの問題を解決する		まとめ・表現				
19	問題演習②		まとめ・表現	観察やノート等への記述を用いて評価（既習の学習内容を振り返り、協働的に問題を解決しようとしているか）			
	協働的に問題を解決する						
20	問題演習③		まとめ・表現	ノート等への記述を用いて評価（既習の学習内容を活用して論理的に考えることができるか）			
	1次関数を利用して問題を解決する						

資質・能力シート (ver.2)

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	理科	学年	2	時期	5～6
単元・題材名	エネルギー 電気の世界・電流の性質				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 科学的探究についての基本的な理解 探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能（データの記録・処理） 		<ul style="list-style-type: none"> 調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能 		
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 電流の実験から得られた結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する力と科学的な根拠を基に表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 電流の性質における様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること（複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだしたり、自分の考えを深めたりする力） 			
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> オームの法則や熱量、電力量の計算練習に粘り強く挑戦する態度 				

単元デザインシート

北海道教育大学附属函館中学校

教科等名	理科	学年	2	時期	5～6	
単元名	エネルギー 電気の世界・電流の性質					
この単元で育成を目指す資質・能力						
(a)(b)(c)	3つの柱	具体的な資質・能力			評価する時数	
(a)	知識・技能	科学的探究についての基本的な理解			1	2 3 7 10
(a)	知識・技能	探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能（データの記録・処理）			3	4 6 11
(a)	思考力・表現力・判断力等	電流の実験から得られた結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する力と科学的な根拠を基に表現する力			4	6 9 11
(a)	学びに向かう力・人間性等	オームの法則や熱量、電力量の計算練習に粘り強く挑戦する態度			8	13 14
(b)	思考力・表現力・判断力等	電流の性質における様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること（複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだしたり、自分の考えを深めたりする力）			9	
(c)	知識・技能	調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能			5	6 9 10 12
単元の構成						
時数	学習内容 学習方法	探究の過程	評価方法			
1	電気の利用1 回路の概念を理解し、直列回路や並列回路の特徴をわかりやすくまとめる。	課題の発見	直列回路、並列回路の特徴がわかりやすくまとめられているか、ワークシートを用いて評価する。			
2	電気の利用2 電気用図記号を学び、それらを使って回路図を書く。また、3路スイッチや4路スイッチを使った回路図についても話し合う。	課題の発見 まとめ・表現	回路図づくりの話し合いを観察するとともに、完成した回路図をワークシートを用いて評価する。			
3	回路に流れる電流・回路に加わる電圧1 電流と電圧の概念、電流計、電圧計、電源装置の使い方を理解し、実際に操作する。	課題の発見 情報の収集	操作のようすを観察するとともに、正しい値を測定できたかワークシートを用いて評価する。			
4	回路に流れる電流・回路に加わる電圧2 直列回路、並列回路の電流と電圧を測定し、その関係性を考察する。	情報の収集 整理・分析	実験の取り組みを観察するとともに、測定結果や考察した内容をワークシートを用いて評価する。			
5	回路に流れる電流・回路に加わる電圧3 直列回路、並列回路の電流、電圧の関係を考察する。	まとめ・表現	直列回路、並列回路の電流、電圧の関係をまとめたワークシートを用いて評価する。			
6	電圧と電流と抵抗1 電圧を変化させて電流を測定し、電流と電圧の関係を考察する。	課題の発見 情報の収集	実験の取り組みを観察するとともに、測定結果や考察した内容をワークシートを用いて評価する。			
7	電流と電圧と抵抗2 抵抗について理解し、電流と電圧の関係についてまとめる。	整理・分析	抵抗やオームの法則についてまとめたワークシートを用いて評価する。			
8	電流と電圧と抵抗3 オームの法則の計算練習を行う。	まとめ・表現	計算練習に取り組むようすを観察するとともに、ワークシートを用いて評価する。			
9 (本時)	電流と電圧と抵抗4（10Ωのオウムをつくらう） 抵抗が物質の長さや断面積によって変化することを実験を通して追究する。	課題の発見 整理・分析	実験の取り組みを観察するとともに、測定結果や考察した内容をワークシートを用いて評価する。			
10	電流と電圧と抵抗5 直列回路と並列回路の合成抵抗の関係を理解する。導体と不導体の概念を理解する。	整理・分析 まとめ・表現	直列回路と並列回路の合成抵抗の関係や導体不導体の概念が理解できたか、ワークシートを用いて評価する。			
11	電気エネルギー1 電熱線の発熱量を測定し、抵抗と発熱量の関係を調査する。	課題の発見 情報の収集	実験の取り組みを観察するとともに、測定結果や考察した内容をワークシートを用いて評価する。			
12	電気エネルギー2 熱量・電力量の概念についてまとめる。	整理・分析	熱量や電力量の概念が理解できたかワークシートを用いて評価する。			
13	電気エネルギー3 熱量・電力量の計算練習を行う。	まとめ・表現	計算練習に取り組むようすを観察するとともに、ワークシートを用いて評価する。			
14	章末チェック 復習とまとめ	まとめ・表現	復習に取り組むようすを観察するとともに、ワークシートを用いて評価する。			

資質・能力シート (ver.2)

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	美術	学年	1	時期	6
単元・題材名	彩色の基礎 『ハコダテの色いろいろ』 【演習+表現】				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
知識・技能	・色彩の持つ魅力を色の三要素や色彩と感情の関係などの視点から、実感的に理解を深めること				
思考力・判断力・表現力等	・感性や想像力を働かせて、色の三要素や色彩と感情の関係などの視点で色彩の持つ魅力を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し、創造的な表現の構想を練ること				
学びに向かう力・人間性等	・色彩の持つ魅力から、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性 ・形や色彩などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度				

単元デザインシート

北海道教育大学附属函館中学校

教科等名		美術科	学年		1	時期		6	
単元名		彩色の基礎 『ハコダテの色いろいろ』 【演習+表現】							
この単元で育成を目指す資質・能力									
(a)(b)(c)	3つの柱	具体的な資質・能力				評価する時数			
(a)	知識・技能	色彩の持つ魅力を色の三要素や色彩と感情の関係などの視点から、実感的に理解を深めること				1			
(b)	思考力・表現力・判断力等	感性や想像力を働かせて、色の三要素や色彩と感情の関係などの視点で色彩の持つ魅力を捉え、造形的なよさや美しさ、意図と表現の工夫などについて考え、豊かに発想し、創造的な表現の構想を練ること				2	5	6	
(c)	学びに向かう力・人間性等	色彩の持つ魅力から、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る感性				1	2		
(c)	学びに向かう力・人間性等	形や色彩などによるコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度				3	4		
単元の構成									
時数	学習内容		探究の過程	評価方法					
	学習方法								
1	色の魅力発見 色の三要素の理解 色彩と感情の理解		課題の発見	ワークシート					
2	ワタシの色（人生のバイオリズム） 色彩と感情を生かし、自分史を色で振り返る		整理・分析	ワークシート					
3	ハコダテの色いろいろ（私の町編） 色彩と感情を生かし、自分の住む地域を色で振り返る		整理・分析	観察 ワークシート					
4 (本時)	ハコダテの色いろいろ（私の街編） （鑑賞：時代のいろ～時層色還～） 色彩と感情を生かし、函館の歴史や特色を色で振り返る。 時代の中で塗り変えられる建造物の時層色環を感受する。		課題の発見 情報の収集	観察 ワークシート					
5・6	夢色の卵へ～私は今～【①】 自分の今を振り返り、色で卵に表現する。		まとめ・表現	作品 ワークシート					

※5・6時間目に制作した夢色卵は、今年度の学期や行事等で振り返りをおこない、色の塗替えをくり返す。学年末にフラッシュ（こすりだし）を実践し、1年間の感情と色彩の関係を振り返る。

資質・能力シート (ver.2)

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	保健体育(体)	学年	3	時期	6～7
単元・題材名	球技 (ゴール型)				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の特性に応じた行い方や運動の知識 (技能の名称・行い方・特性・成り立ち・運動観察方法) ・運動の特性や魅力に応じた基本的な技能 (知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする) 				
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題に応じ運動の取組方を工夫できる思考力・判断力・表現力 (練習方法・自己や仲間を見付ける・スポーツとの様々な関わり) 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会の諸課題の解決に向け協働的に追究し、根拠をもって主張するなどして合意を形成する力 		
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度 (相手を尊重・伝統的な行動の仕方を大切にす る・健康、安全の確保) 				

単元デザインシート

北海道教育大学附属函館中学校

教科等名		保健体育科	学年	3	時期	6～7				
単元名		球技（ゴール型・バスケットボール）								
この単元で育成を目指す資質・能力										
(a)(b)(c)	3つの柱	具体的な資質・能力				評価する時数				
(a)	知識・技能	運動の特性に応じた行い方や運動の知識（名称・行い方・特性・成り立ち・運動観察の方法）				1	2	3		
(a)	知識・技能	運動の特性や魅力に応じた基本的な技能（知識を踏まえて、基本的な運動の技能として発揮したり、身体表現したりする）				2	3			
(a)	思考力・表現力・判断力等	自己の課題に応じ運動の取組方を工夫できる思考力・判断力・表現力（練習方法選択・仲間を見付ける・スポーツとの関わり方）				4	5	6		
(a)	学びに向かう力・人間性等	生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む態度（相手を尊重し伝統的な行動の仕方を大切にする・健康、安全の確保）				7	8	9	10	
(c)	思考力・表現力・判断力等	社会の諸課題の解決に向け協働的に追究し、根拠をもって主張するなどして合意を形成する力				7	8	9	10	
単元の構成										
時数	学習内容 学習方法		探究の過程	評価方法						
1	試しのゲーム ゴール型球技（バスケットボール）の特性や魅力を振り返る		整理・分析	ワークシートへの記述による						
2	今の自分達の中で、ゴール型球技の特性や魅力を感じる ゴール型球技（バスケットボール）に対する、今現在の自分達の知識・技能をタスクゲームで把握する		整理・分析	撮影した動画を分析する						
3	今の自分達の中で、ゲームでのゴール型球技の特性や魅力を感じる ゴール型球技（バスケットボール）のメインゲームにおける、今現在の自分達の知識・技能を把握する		整理・分析	撮影した動画を分析する						
4	今の自分達の中で、ゴール型球技を楽しむには① 今もっている力でゴール型球技（バスケットボール）の特性や魅力に触れる事を考える（ルール面から）		課題の設定	討議の様子を観察する						
5	今の自分達の中で、ゴール型球技を楽しむには② 今もっている力でゴール型球技（バスケットボール）の特性や魅力に触れる事を考える（技能面から）		課題の設定	討議の様子を観察する						
6 (本時)	今の自分達の中で、ゴール型球技を楽しむには③ 今もっている力でゴール型球技（バスケットボール）の特性や魅力に触れる事を考える（ルール・技能両面から）		課題の設定	討議の様子を観察する						
7	リーグ戦Ⅰ① 今もっている力で、チームの勝利を目指し、ゴール型球技（バスケットボール）の特性や魅力に触れ楽しむ。		まとめ・表現	タブレットのスタッツ記録アプリワークシートへの記述による						
8	リーグ戦Ⅰ② 今もっている力で、チームの勝利を目指し、ゴール型球技（バスケットボール）の特性や魅力に触れ楽しむ。		まとめ・表現	タブレットのスタッツ記録アプリワークシートへの記述による						
9	リーグ戦Ⅱ① 今もっている力で、新たなチームの勝利を目指し、ゴール型球技（バスケットボール）の特性や魅力に触れ楽しむ。		まとめ・表現	タブレットのスタッツ記録アプリワークシートへの記述による						
10	リーグ戦Ⅱ②・ゴール型球技のまとめ 今もっている力で、新たなチームの勝利を目指し、ゴール型球技（バスケットボール）の特性や魅力に触れ楽しむ。		まとめ・表現	タブレットのスタッツ記録アプリワークシートへの記述による						

※本単元では、単元を通して「ゴール型球技（バスケットボール）の特性や魅力を、今の自分達のもっている力で触れながら楽しむ」ということを見通しながら学習活動に取り組むことをねらいとしている。

資質・能力シート (ver.2)

北海道教育大学附属函館中学校

教科名	外国語	学年	1	時期	6
単元・題材名	unit 3 私の好きなこと				
この単元・題材の役割					
	各教科において育成を目指す 資質・能力	情報活用能力	市民として求められる 資質・能力		
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の特徴やきまりに関する理解 (音声) ・外国語の特徴やきまりに関する理解 (語彙・表現) ・外国語の特徴やきまりに関する理解 (文法の知識) ・言語の働き、役割に関する理解 (情報を伝える、説明する、理由を述べる等) ・外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を、「書くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を活用した実際のコミュニケーションにおいて運用する技能 		<ul style="list-style-type: none"> ・調査や諸資料から情報を効果的に調べまとめる技能 		
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語で、情報や考えなどを表現し伝え合う力 (コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を聞いたり書いたりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション能力) 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力や、問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること (様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉える力) 			
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなどお互いの存在について理解を深め、尊重しようとする態度 ・自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 				

単元デザインシート

北海道教育大学附属函館中学校

教科等名	外国語科		学年	1	時期	6
単元名	Unit3 私の好きなこと					
この単元で育成を目指す資質・能力						
(a)(b)(c)	3つの柱	具体的な資質・能力	評価する時数			
(a)	知識・技能	外国語の特徴やきまりに関する理解（音声、語彙・表現、文法の知識）	1			
(a)	知識・技能	言語の働き、役割に関する理解（情報を伝える。）	1			
(a)	知識・技能	外国語の音声、語彙・表現、文法の知識を4技能を活用した実際のコミュニケーションにおいて運用する技能	2	3		
(a)	思考力・表現力・判断力等	外国語で、情報や考えなどを表現し伝え合う力（コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、幅広い話題について、外国語を聞いたり書いたりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション能力）	2	3		
(a)	学びに向かう力・人間性等	外国語を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現するとともに他者を理解するなどお互いの存在について理解を深め、尊重しようという態度	3			
(a)	学びに向かう力・人間性等	自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度	3			
(b)	思考力・表現力・判断力等	様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見出す力や、問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること（様々な事象とその結びつきの視点から捉える力）	4	5		
(c)	知識・技能	調査や各資料から情報を効果的に調べまとめる技能	4	5		
単元の構成						
時数	学習内容		探究の過程	評価方法		
	学習方法					
1	一般動詞とBe動詞の比較（肯定文）		整理・分析 まとめ・表現	ワークシートによる評価		
	自己紹介					
2	一般動詞とBe動詞の比較（疑問文・否定文）		整理・分析 まとめ・表現	ワークシートによる評価		
	インタビュー（一般動詞を使い、自分の学校生などにかかわる事柄について、わかりやすく聞き手にこたえる）					
3	一般動詞の働きの理解・運用		情報の収集 課題の発見	インタビューの様子をループリックに基づき評価		
	インタビュー（一般動詞を使い、相手の学校生などにかかわる事柄について聞き出す）					
4 (本時)	言語比較のためのインタビュー		情報の収集 整理・分析	ワークシートによる評価		
	英語を含んだ数種類の言語と母国語である日本語を観察してたり、議論をしながら、類似点や相違点を見つけ比較する					
5	既習内容（国語科）との比較・分析		整理・分析 まとめ・表現	ワークシートによる評価		
	比較・分析結果の整理発表					

学校名・団体名：北海道教育大学附属函館中学校

研究課題：「他者と協働して情報を整理・発信・伝達できる生徒の育成を目指して」

目的：高度に情報化した社会では、必要な情報を収集する能力だけでなく、情報を自ら発信・伝達できる能力や、個人の卓越したICT機器の操作技術に加えて他者と協働して課題を解決する力が求められる。このような能力の育成に資する各教科等間の連携を実現するカリキュラム開発及び授業実践の蓄積を本研究の目的とする。

A. 現状・課題

- ・一人一台のタブレットPC環境によって、インターネットを利用してより信頼性の高い情報収集を行うことができる。
- ・アプリ等を活用して画像・動画編集ができる
- ・他者と協働して情報に関わる(収集、発信・伝達)学習活動が少ない。
- ・教科等を横断して情報を発信・伝達する能力の育成を目指す教育活動が、意図的・計画的に取り組まれていない。

C. 取り組み内容

- ・『他者と協働して情報を整理・発信・伝達できる生徒』を構成する要素を設定する。
- ・これまでに本校で取り組まれてきた各教科でのICTを活用した授業実践に関するヒアリング調査を行う。
- ・『他者と協働して情報を整理・発信・伝達できる生徒』育成のカリキュラム表(仮)を作成する。
- ・「カリキュラム表」(仮)に基づいて各教科の授業実践に取り組み、効果検証を行う。
- ・生徒が、クラウドを活用し、情報を発信・伝達する学習活動のある授業を計画・実践する。
- ・授業実践等に基づいて「カリキュラム表」の改善を図る。

E. 成果目標・取り組み後の状況

- ・生徒がICTを活用した協働型授業において、他者との協働により、さまざまな状況を考慮しながら学習した事柄を整理するとともに、最も適した方法で発信・伝達できるなどの(情報活用)能力を効果的に育むカリキュラムや新たな授業デザインを開発・提案する。
- ・ICTの特長であるテキスト以外の絵、グラフ、映像等を含めた成果物データを蓄積・共有することや、時空を超えた学習環境で協働学習を可能とする利点を、今求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の視点から明らかにする。

54

B. 学校情報化の現状

- ・教科指導におけるICT活用：レベル 2.0
 - ・情報教育：レベル 2.0
 - ・校務の情報化：レベル 2.0
 - ・情報化の推進体制：レベル 2.0
- 本校の特徴：
一人一台タブレットPC貸与(平成25年度～)
データによる教材の配布・回収等

D. 定着・普及の方法

- 校内研究会の予定
- 公開研究会、学会発表等の予定
教育研究大会：6月9日(金)・10日(土)
教科研究会：平成29年10～11月
北海道教育大学函館校ウインターフェス

F. 研究者や他校のアドバイス

研究課題：「他者と協働して情報を整理・発信・伝達できる生徒の育成を目指して」

※研究協議会を経て研究概要を変更したもの

目的：高度に情報化した社会では、必要な情報を収集する能力だけでなく、情報を自ら発信・伝達できる能力や、個人の卓越したICT機器の操作技術に加えて他者と協働して課題を解決する力が求められる。このような能力の育成に資する各教科等間の連携を実現するカリキュラム開発及び授業実践の蓄積を本研究の目的とする。

A. 現状・課題

- ①一人一台のタブレットPC環境によって、インターネットを利用してより信頼性の高い情報収集を行うことができる。
- ②アプリ等を活用して画像・動画編集ができる
- ③他者と協働して情報に関わる(収集、発信・伝達)学習活動が少ない。
- ④教科等を横断して情報を発信・伝達する能力の育成を目指す教育活動が、意図的・計画的に取り組まれていない。

55

C. 取り組み内容

- ①最終的な目標とする『他者と協働して情報を整理・発信・伝達できる生徒』の具体的な姿と、それらを構成する要素を設定する。
- ②『他者と協働して情報を整理・発信・伝達できる生徒』育成のカリキュラム表(仮)を研究部が中心となって作成するとともに、各教科担当者からこれまでの授業実践での取組や今後の取組の可能性に関するヒアリング調査を行い、「カリキュラム表」(仮)の改善を図る。
- ③「カリキュラム表」(仮)に基づいて各教科の授業実践に取り組み、効果検証を行う。
- ④特に重点化する取組として、生徒が、クラウドを活用し、情報を発信・伝達する学習活動のある授業を各教科において計画・実践する。
- ⑤③及び④の実践等に基づいて②を行い、再度③及び④に取り組むという検証改善サイクルを重視する。

E. 成果目標・取り組み後の状況

- ①生徒がICTを活用した協働型授業において、他者との協働により、さまざまな状況を考慮しながら学習した事柄を整理するとともに、最も適した方法で発信・伝達できるなどの(情報活用)能力を効果的に育むカリキュラムや新たな授業デザインを開発・提案する。
- ②ICTの特長であるテキスト以外の絵、グラフ、映像等を含めた成果物データを蓄積・共有することや、時空を超えた学習環境で協働学習を可能とする利点を、今求められている「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の視点から明らかにする。
- ③『他者と協働して情報を整理・発信・伝達できる生徒』の育成に特に適している各教科の単元等を明らかにするとともに、その単元の指導計画等の具体例を示す。

B. 学校情報化の現状

- ・教科指導におけるICT活用：レベル 2.0
- ・情報教育：レベル 2.0
- ・校務の情報化：レベル 2.0
- ・情報化の推進体制：レベル 2.0

本校の特徴：

- 一人一台タブレットPC貸与(平成25年度～)
- データによる教材の配布・回収等

D. 定着・普及の方法

校内研究会の予定

公開研究会、学会発表等の予定

教育研究大会：6月9日(金)・10日(土)

教科研究会：平成29年10～11月

北海道教育大学函館校ウインターフェス

F. 研究者や他校のアドバイス

- ①研究の成果と課題を明確にするために、最終的に目指す姿(例として、協働できる力を高めるのか、個人の力を高めるのか)を明らかにした上で、評価方法の検討(国際調査やパフォーマンス課題等)に取り組む必要がある。
- ②各種調査から課題とされる部分にアプローチする研究であるが良い。
- ③研究の過程を明らかにし、変化の理由や根拠を明確にすることで、他校が実践の参考とすることができる。
- ④各教科の授業実践という具体を抽象化して、育成を目指す資質・能力の発展モデルを示したり、指導の展開を示せると良い。
- ⑤研究部が中心となり先行研究(特に小学校の取組)から、すでに成果となっていること、今後解決すべきことを整理して取り組むとよい。
- ⑥情報活用能力の育成において、ICTを活用する意義のあるものと、ICTでなくともよいところを明確に示せると良い。



北海道教育大学附属函館中学校

〒041-0806 北海道函館市美原3丁目48番6号

電話 0138-46-2233 FAX 0138-47-6769

MAIL hak-fuchu@h.hokkyodai.ac.jp

HP http://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_chu/

Facebook <https://www.facebook.com/huefzhak/>